

一般国道9号（青谷・羽合道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書IV

鳥取県東伯郡泊村

小浜千速遺跡
石脇第3遺跡森末地区
—2区・3区—

2000

財團法人 鳥取県教育文化財団
建設省 倉吉工事事務所

小浜千歳遺跡

石脇第3遺跡森末地区 - 2区・3区 -

正誤表

頁・行

誤

正

P 2、19行目	土師器	土師質土器
P 4、22行目	前述した青谷町と同じく	泊村には
P 14、3行目	断面形浅い	断面形は浅い
P 18、6行目	F 1 小型	F 1 は小型
P 19、28行目	瓦質土器Po5	瓦質土器羽釜Po5
P 21、4行目	浅い皿条	浅い皿状

一般国道9号（青谷・羽合道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書IV

鳥取県東伯郡泊村

小浜千速遺跡
石脇第3遺跡森末地区
—2区・3区—

2000

財団法人 鳥取県教育文化財団
建設省 倉吉工事事務所

序

鳥取県は北は日本海に臨み、南は中国山地によって山陽地方と画されています。県域は東西に長く、その大部分は山間地が占めていますが、日本海沿いには中国山地から急激に流れ下る河川によって運ばれた大量の土砂によって形成された平野部が存在しております。県民の活動域はこの平野部を中心となっており、道路や鉄道などの交通網も平野部を東西方向に延びるルートが主要なものであり、整備も進められているところです。

一般国道9号は山陰地方の産業、経済活動における大動脈であるとともに、文化交流を促進する上でも欠くことの出来ない道路であり、より一層の高速化を含めた整備が望まれているところですが、整備の一環として将来の国土開発幹線道路となる高規格の自動車専用道路が建設されることになり、建設工事に先立って遺跡の発掘調査が順次実施されております。

一般国道9号（青谷・羽合道路）の道路改築事業についても、建設省の委託を受けた財団法人鳥取県教育文化財団では、泊村内にある「小浜千速遺跡」及び「石脇第3遺跡～森木地区2区・3区～」の2遺跡を記録保存するため、平成11年度に発掘調査を実施いたしました。

これらの遺跡は、平成8・9年度に当財団が調査を実施し、すでに報告書も刊行されている泊村内の遺跡に近接して存在する遺跡であり、当該地域の歴史を解き明かしていく上で必要な新たな情報を提供できたと考えています。

本報告書は、これらの発掘調査の成果に学術的な考察を加え、記録として保存するためにまとめたものです。本報告書が、埋蔵文化財に対する認識と理解を深める一助となり、教育及び学術研究のために広く活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、調査に際しまして、多大な御理解と御協力をいただいた地元の方々をはじめとする関係各位に対し、心から感謝すると共に厚くお礼を申し上げます。

平成12年3月

財団法人 鳥取県教育文化財団
理事長 有田 博充

序 文

建設省が直接管理する一般国道9号は、京都市を起点として福知山市を経由し、蒲生峠から山陰地方へ入り、日本海に沿って鳥取・島根両県を西走し、益田市から中国山地を越えて山口市、下関市に至る総延長約671kmの幹線道路であり、西日本の産業・経済活動の大動脈として大きな役割を果たしています。

このうち建設省倉吉工事事務所では、東伯郡泊村から米子市（鳥取・島根県境）までの76.6kmを管理しており、広域交流を進める道づくり、暮らしを豊かにする道づくりなど各種の道路整備事業を実施しています。その一つとして、環日本海交流の基幹軸の一環を担う高規格幹線道路（自動車専用道路）の一部である青谷羽合道路の整備を銳意進めているところです。

青谷羽合道路は、気高郡青谷町から東伯郡羽合町にかけての多種多様な交通による混雑や峠部の冬季交通障害の解消、安全で円滑な交通の確保のほか、機能分担として災害時の緊急輸送路の代替路線確保を目的として計画され、昭和61年度から事業に着手し、今年度は土地改良工事及び橋梁工事を促進しています。

このルート上には、多数の「周知の埋蔵文化財包蔵地」がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の3の規定に基づき文化庁へ通知した結果、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

このうち平成11年度は、「小浜干廻遺跡」「石脇第3遺跡（森末地区）」の2遺跡について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査委託契約を締結し、鳥取県教育委員会の指導のもと発掘調査が行われました。

本書はこの調査結果に学術的な考察を加え、「記録」として保存するためにまとめられたものです。この貴重な「記録」が文化財に対する認識と理解を深めるため、並びに教育及び学術研究のために広く活用されることを期待するとともに、建設省の道路事業が文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることを理解いただけることと期待するものであります。

終わりに、事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集に至るまでご尽力いただいた鳥取県教育委員会及び財団法人鳥取県教育文化財団の関係各位に対し心から感謝申し上げます。

平成12年3月

建設省中国地方建設局

倉吉工事事務所長 鈴木秀章

例　　言

1. 本報告書は、一般国道9号（青谷・羽合道路）の道路改築工事に伴い、1999（平成11）年度に調査を実施した東伯郡泊村小浜字千速398番地に所在する小浜千速遺跡、泊村石脇字森末468-1、549-1・5に所在する石脇第3遺跡（森末地区2区および3区）の埋蔵文化財発掘調査記録である。
2. 調査地には国土座標第V系に基づく10m方眼のグリッドを設定し、南北方向をアルファベット、東西方向をアラビア数字で表示しグリッド名とした。方位は国土座標第V系に基づく座標北、レベルは海拔標高である。なお、石脇第3遺跡森末地区2区および3区のグリッド名は、平成8年度調査時のグリッドに基づいている。
3. 発掘調査の実施に当たり、小浜千速遺跡の基準点及び方眼測量業務、石脇第3遺跡の基準点、調査前地形及び方眼測量業務を測量業者に委託した。
4. 本報告書に記載した周辺遺跡分布図には国土地理院発行の5万分の1地形図「青谷」（平成6年修正版）及び「倉吉」（平成6年修正版）を使用した。
5. 本報告書の作成は調査員の討議に基づく。本文は調査員が執筆し、遺構、遺物の実測並びに浄書は調査員を中心実施した。
6. 遺構写真は調査員が撮影したが、遺物写真的撮影は、奈良国立文化財研究所の牛嶋茂、杉本和樹の両氏にお願いした。
7. 報告書刊行後、出土遺物は泊村教育委員会、図面、写真等は鳥取県埋蔵文化財センターで保管される。

凡　　例

1. 出土遺物にネーミングした遺跡名は下記の略称を用いた。
小浜千速遺跡：千ヤ　　石脇第3遺跡森末地区：石3モリ
2. 本報告書における遺構記号は下記のように表す。
S K：土坑　　S D：溝状遺構　　S S：段状遺構　　S X：不明遺構　　P：柱穴・ピット
3. 本報告書における遺物記号は下記のように表す。
Po：土器・土製品　　S：石製品　　F：鉄製品
4. 遺物実測図中における記号は以下のとおりとする。
5. 遺物観察表の法量欄の丸数字は下記の意味で、数値の前につけた※は復元値、△は残存値であることを表す。
①口径　②器高　③底部径　④脚径　⑤洞部最大径　⑥長さ　⑦幅　⑧厚さ　⑨孔径
6. 遺物観察表の色調欄の記述は農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『標準土色帖』に基づく。
7. 遺物観察表の備考欄に記載した「西川-1」等の番号は実測者番号であり、シールに番号を記載して遺物個体ごとに貼り付け、遺物の特定ができるようにしてある。

目 次

序
序文
例言
凡例
目次
挿図目次
挿表目次

第1章 調査の経緯

第1節 発掘調査に至る経緯.....	1
第2節 調査の経過と方法.....	2
第3節 調査体制.....	3

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境.....	4
第2節 歴史的環境.....	6

第3章 小浜千速遺跡の調査

第1節 調査の概要.....	11
第2節 土坑.....	13
第3節 溝状遺構.....	14
第4節 遺構外の遺物.....	15

第4章 石脇第3遺跡森末地区の調査

第1節 調査の概要.....	17
第2節 2区土坑.....	18
第3節 2区遺構外の遺物.....	19
第4節 3区土坑.....	21
第5節 3区段状遺構.....	23
第6節 3区溝状遺構.....	30
第7節 3区遺構外の遺物.....	31

図版

報告書抄録

挿図目次

挿図 1 遺跡周辺地形図	5
挿図 2 周辺遺跡分布図	10
【小浜千速遺跡】	
挿図 3 小浜千速遺跡調査前地形測量図	11
挿図 4 小浜千速遺跡調査後地形測量図	12
挿図 5 調査地内南北断面図	13
挿図 6 S K -01遺構図	13
挿図 7 S X -01遺構図	13
挿図 8 S D -01遺構図	14
挿図 9 遺構外出土遺物実測図	15
【石脇第3遺跡森末地区2区・3区】	
挿図10 石脇第3遺跡森末地区2区・3区 調査前地形測量図	17
挿図11 石脇第3遺跡森末地区調査区位置図	18
挿図12 石脇第3遺跡森末地区2区 調査後地形測量図	18
挿図13 S K -16遺構図	18
挿図14 S K -17遺構図	19
挿図15 石脇第3遺跡森末地区2区 遺構外遺物出土状況図	19
挿図16 石脇第3遺跡森末地区2区 遺構外出土遺物実測図	20
挿図17 石脇第3遺跡森末地区3区 調査後地形測量図	21
挿図18 S K -18遺構図	21
挿図19 S K -19遺構図	21
挿図20 S K -20遺構図	22
挿図21 S K -21遺構図	22
挿図22 S K -22遺構図	23
挿図23 S K -23遺構図	23
挿図24 S S -05遺構図	24
挿図25 S S -05遺物出土状況図	25
挿図26 S S -05出土遺物実測図I	26
挿図27 S S -05出土遺物実測図II	27
挿図28 S S -05出土遺物実測図III	28
挿図29 S S -05出土遺物実測図IV	29
挿図30 S S -05出土遺物実測図V	30
挿図31 S D -06遺構図	30
挿図32 S D -06出土遺物実測図	31
挿図33 石脇第3遺跡森末地区3区 遺構外出土遺物実測図	32

挿表目次

【小浜千速遺跡】	
挿表1 遺構外出土土器観察表	15
挿表2 遺構外出土鉄製品観察表	15
【石脇第3遺跡森末地区2区・3区】	
挿表3 2区遺構外出土土器・土製品観察表	20
挿表4 3区S S -05出土土器・土製品観察表	26
挿表5 3区S S -05出土石製品観察表	31
挿表6 3区S D -06出土土器観察表	31
挿表7 3区遺構外出土土器観察表	32

第1章 調査の経緯

第1節 発掘調査に至る経緯

地域間交流を促進するためには、情報通信網と交通網を整備して高速化をはかることが欠かせない。情報通信網の整備は近年急速に進みつつあり、情報化社会の到来が叫ばれている。しかし、交通網の整備は容易でなく、完成までには長い時間と多額の費用が必要であり、一朝一夕には成し遂げることはできないのが実状である。

京都市から福知山市を経て鳥取県・島根県の日本海沿いを西走し、山口市を経由して下関市へ続いている一般国道9号は4府県の府県庁所在地を繋いでおり、山陰地方にとって無くてはならない幹線道路である。しかし、中国山地から延びる丘陵が日本海間際まで迫っている所も多い鳥取県では、尾根や谷筋を道路が横断することになるうえに、古くからの道に山來する道路は地形に制約されているためにカーブが多く、現在求められている高速化には適していない。そのため、高速化に対応した道路が新たに計画され建設が進められている。鳥取県東部から中部にかけて的一般国道9号の青谷・羽合道路は気高郡青谷町青谷のインターチェンジから東伯郡泊村原のインターチェンジを経由して東伯郡羽合町長瀬のインターチェンジに続く将来の国土開発幹線道路となる高規格の自動車専用道路である。このうち、青谷町青谷から泊村原のインターチェンジ間15.6kmの区間も、古くから遺跡の存在が知られていた地域であり、工事に先立って当該する町村の教育委員会が国及び県の補助金を得て試掘調査を行った。その結果、遺跡の所在が明らかとなった箇所については用地買収を待って、平成8年度から財団法人鳥取県教育文化財団（以下、財団）によって発掘調査が順次実施されている。平成8年度には石脇第3遺跡（いわきだい）（森木地区・同（操り地区）、寺戸第1遺跡・寺戸第2遺跡、平成9年度には石脇第1遺跡・石脇第3遺跡（操り地区）、小浜ワラ畠遺跡、小浜小谷遺跡、池ノ谷第2遺跡、平成10年度には園第6遺跡、青谷上寺地遺跡、長谷1号墳、長谷7号墳が調査された。調査の成果は、鳥取県教育文化財団調査報告書54『石脇第3遺跡（森木地区・操り地区）・石脇8・9号墳・寺戸第1遺跡・寺戸第2遺跡・石脇第1遺跡』、同55『小浜ワラ畠遺跡・小浜小谷遺跡・池ノ谷第2遺跡』、同61『長瀬高浜遺跡』、同66『長谷古墳群・長和瀬谷田遺跡』としてすでに報告書が公刊されている。そして、長谷1号墳、7号墳については平成11年度に調査された長谷瀬谷田遺跡と共に、同66『長谷古墳群・長和瀬谷田遺跡』として、青谷上寺地遺跡についても、同67『青谷上寺地遺跡1』、同68『青谷上寺地遺跡2』が平成11年度末に刊行される運びとなっている。

以上のような調査に継続して、平成11年度も発掘調査が実施されることになった。

一般国道9号（青谷・羽合道路）改築工事に伴って、平成8年4月から泊村教育委員会によって泊村小浜字千速地内で実施された試掘調査では、ピットと繩文土器の深鉢が出土した。その結果、遺跡の存在が明らかとなつたため、関係機関の間でその取扱いについて協議を重ねた上で、建設省中国地方建設局長（以下、建設者）から文化庁長官に対し文化財保護法第57条の3に基づく発掘通知が提出された。発掘調査の指示を得た建設者は鳥取県教育委員会とさらに協議を行い、発掘調査を財団に委託することとした。建設省から発掘調査を受託した財団は、鳥取県埋蔵文化財センター所長が文化財保護法第57条第1項に基づいて文化庁長官に発掘調査の実施を届け出た上で、平成11年度に中部埋蔵文化財北条調査事務所泊分室を設置して2名の担当調査員を配置し、小浜千速遺跡の調査を実施することになった。ところが、年度途中に当初の予定になかった石脇第3遺跡（森木地区）で設計変更に伴って、平成8年度の既調査部分に加えて新たに隣接地の調査が必要となることが明らかとなった。所定の手続きを経て調査の指示が下ったため、合わせて中部埋蔵文化財北条調査事務所泊分室が発掘調査を担当することになった。なお、石脇第3遺跡森木地区の既調査部分と区別するため、平成8年度調査地を石脇第3遺跡森木地区1区（以下、1区）とし、本年度調査地を石脇第3遺跡森木地区2区（以下、2区）及び石脇第3遺跡森木地区3区（以下、3区）として記述することにした。

参考 『泊村内遺跡発掘調査報告書－石脇第3遺跡－』泊村教育委員会 1996

『泊村内遺跡発掘調査報告書－小浜千速遺跡－』泊村教育委員会 1997

第2節 調査の経過と方法

小浜千速遺跡では、平成8年度に泊村教育委員会が実施した試掘調査によってピットと縄文土器が出土しており、地形的にも比較的平坦状を呈することから、遺存状態の良好な遺跡が存在する可能性が推測されていた。本来は平成9年度に調査が実施される予定であったが、用地買収の遅れのために次年度以降に調査が繰り延べられていたもので、ようやく平成11年度に調査着手が可能となった経緯がある。調査予定面積は3564m²であり、発掘調査期間は平成11年7月から10月末までの4ヶ月間であった。

発掘調査は7月1日から調査に必要な事前の諸準備を行い、立木の伐採・撤去の終了した22日から調査員によって調査前地形測量を開始した。27日には土層観察を兼ねた調査地際の側溝を掘るために作業員の稼働を始め、29日から重機による表土剥ぎを実施した。排土は調査地外の道路用地部分に搬出した。表土剥ぎ終了後、業者に委託して国土座標第V系に対応するグリッドを設定するための方眼杭を設置した。調査の結果、土坑・溝状遺構・不明遺構が各1つずつと若干の土器・鉄器類が出土した。10月4日で調査を終了した。

石脇第3遺跡森末地区1区は、平成8年度に財團が実施した調査によって竪穴住居跡や掘立柱建物跡・土坑などの遺構や土師器や須恵器・布目瓦などの遺物が出土している。2区・3区は前述したように1区の隣接地であり、1区内の2区・3区周辺では遺構密度は高くないものの遺構の拡がりは十分に推測された。調査予定面積は380m²であり、発掘調査期間は平成11年10月から11月末までの2ヶ月間となった。

発掘調査は10月5日から調査に必要な事前の諸準備を行い、業者に委託して1区内に再度国土座標第V系に対応するグリッドを設定するための方眼杭を設置すると共に2・3区の調査前地形測量を行った。10月28日から作業員の稼働を開始すると共に重機による表土剥ぎを実施した。排土は調査の終了している1区内に搬出した。なお、1区と2区・3区は調査年度が違うだけで同じ遺跡であるため、遺構番号は平成8年度調査時の番号に継続して設定した。調査の結果、2区からは土坑2基と中世の瓦質土器や土師器、3区からは遺構として土坑6基と段状遺構1基、前回調査時の溝状遺構（SD-06）の継続部分、遺物では土師器や須恵器が出土した。調査は調査後地形測量の完了した11月30日をもって終了した。



調査参加者

第3節 調査体制

○調査主体 財団法人鳥取県教育文化財団

理 事 長	有 田 博 充 (鳥取県教育長)
常 務 理 事	大 和 谷 朝 (鳥取県教育委員会事務局次長)
事 務 局 長	岡 山 宏 徳

財団法人鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター

所 長	古 井 喜 紀 (鳥取県埋蔵文化財センター所長)
次 長	八 木 谷 昇
調 整 係 長	松 田 潔
文化財主事	高 垣 陽 子
主任事務職員	矢 部 美 恵
事 務 職 員	小 林 順 子

○調査担当 財団法人鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター

中部埋蔵文化財北条調査事務所泊分室

所 長	更 田 怜 治
主任調査員	西 川 黴
調 査 員	手 島 尚 樹

○調査指導 鳥取県教育委員会事務局文化課

鳥取県埋蔵文化財センター

○調査協力 泊村教育委員会

下記の方々に、発掘作業又は整理作業に従事ないし協力をいただいた。

尾川 美佐子	加嶋 三枝子	加嶋 義則	河口 智津子
桜井 敏夫	嶋崎 アツ子	嶋崎 则子	嶋崎 久子
清水 房子	肩子 彰子	陶山 富江	谷本 登
谷本 美智恵	中村 まきえ	西本 てる子	野島 尚子
福田 弥千代	松井 久雄	松田 アイ子	松田 澄子
松田 正己	松田 八重子	森 信季	山下 清範
山田 崇美	(敬称略、五十音順)		

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

鳥取県

鳥取県は、島根県・岡山県・広島県や山口県と共に中国地方を形成する。東は兵庫県、西は島根県、南は岡山県・広島県とそれぞれ接し、北は日本海に面している。中国地方は、標高1200mを越える山々を擁する中国山地を隔てて、瀬戸内海に面する山陽地方と、日本海に面する山陰地方に分けられ、鳥取県は島根県と共に山陰地方に位置している。

鳥取県域は、東西約126km、南北約62km、面積約3,507km²である。県内は、鳥取市周辺を中心とする東部地域、倉吉市周辺を中心とする中部地域、米子市・境港市周辺を中心とする西部地域に大きく分けられる。各地域とも地勢は山がちであり、山地が県総面積の86.3%を占める。それぞれの地域には、県下を代表する三大河川である千代川（東部）、天神川（中部）、日野川（西部）が流れ、その下流域には、鳥取平野（東部）、倉吉・北条・羽合平野（中部）、米子平野（西部）が形成されている。各平野の海岸線には、全国的に有名な鳥取砂丘はじめとして、河川によって運ばれた多量の砂により大小の砂丘・砂州が発達している。

人々の生活領域は、山間の谷奥平野と海岸に開けた沖積平野に展開している。千代川下流域には、江戸時代に鳥取池田藩三十二万五千石の城下町として発展し、現在は県庁所在地である鳥取市が位置する。その南東側にはかつての律令時代には「因幡國」の国府が置かれていた国府町が位置している。天神川中流域には、かつての律令時代には「伯耆國」の国府が置かれていた倉吉市が位置している。日野川下流域には、「山陰の商都」と呼ばれる商業の町として発展してきた米子市が位置し、現在も交通の要所として発展している。米子市の北西に延びる弓ヶ浜半島の突端部には、国内有数の漁業基地である境港を有する境港市が位置している。

現在鳥取県は、前述した4市を中心として39市町村により構成されている。人口は、614,733人（平成12年3月1日現在）と47都道府県で最少であるが、自然の多い美しい景観を残している。

泊村

東伯郡泊村は旧伯耆国の中間に位置し、東西約6km、南北約5km、面積約14.5km²を測る。東は気高郡青谷町、西は東伯郡羽合町、南は東郷町に接し、北は日本海に面している。前述した青谷町と同じく、南から伸びる溶岩台地が開析されて分岐した尾根と、尾根に挟まれた小河川が存在する。溶岩台地北端の岬である尾後鼻・甲龜山は日本海に突出している。村内の東側を石脇川、西側には原川が日本海に向けて流下し、河口付近に小規模な沖積平野を形成している。しかし、水田はわずかで、漁業や畑作、果樹栽培が産業の中心である。海岸部は砂丘と岩石海岸からなっている。人口は3,187人（平成12年3月1日現在）である。

調査地

小浜干疊遺跡は、日本海に向けて伸びる溶岩台地が開析されて分岐した尾根上にあり、平成9年度に調査された池ノ谷第2遺跡と小浜小谷遺跡に挟まれた位置にある。

石脇第3遺跡森末地区2区および3区は、古代山陰道に推定されている谷に面する緩斜面の途中に位置する。平成8年度に調査された石脇第3遺跡森末地区1区の隣接地である。

参考文献

『小浜フラ畑遺跡・小浜小谷遺跡・池ノ谷第2遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団 1998

日野尚志「伯耆國の陥路について」『佐賀大学教育学部研究論文集』第38集第2号 1991

『石脇第3遺跡（森末地区・操り地区）・石脇8・9号墳・寺戸第1遺跡・寺戸第2遺跡・石脇第1遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団 1998



挿図1 遺跡周辺地形図

第2節 歴史的環境

鳥取県内では遺構を伴う確実な旧石器時代の遺跡は確認されていないが、大山山麓を中心に旧石器がいくつか見つかっている。県中部域では、青谷町野津三第1遺跡で黒曜石製の縦長剥片のナイフ型石器と安山岩質製の横長剥片のナイフ型石器などが見つかっている。また、倉吉市内では旧石器の発見が多く、中尾遺跡で黒曜石製・安山岩質製のナイフ型石器、安山岩質製の削器、長谷遺跡で安山岩質製のナイフ型石器、和田では石刃、上野51号墳・高鼻2号墳からは細石刃石核、横谷遺跡群でナイフ形石器や楔形石器が出土している。青谷町・泊村内では旧石器時代の遺物は見つかっていない。

繩文時代草創期の土器の出土例はないが、大山山麓でこの時期の石器類がいくつか確認されている。遺跡周辺では、関金町笛ヶ平・伝大栄町庵波などで有尖頭器、倉吉市長谷遺跡で尖頭器が見つかっている。

早期になると丘陵・台地上で遺跡が確認されるようになり、倉吉市取木遺跡では押型文土器と共に竪穴住居跡や屋外炉跡が見つかっている。また、羽合町の南谷19号墳で安山岩質製のスクレイパーが出土している。その他、倉吉市中田遺跡・野口遺跡、大栄町築山遺跡、東伯町大法3号墳などで土器や石器が出土している。泊村の原第2遺跡でも早期末から前期にかけての土器を伴う土坑が見つかっている。

前期になると気候が温暖化して海進が進んで入り江が形成されていき、入り江周辺で遺跡が確認されるようになる。青谷町では蔵内上長谷第2所在遺跡で土器が出土している。泊村内では当該期の遺構・遺物は確認されていないが、当時のラグーンに面して立地する北条町島遺跡では、前期～晩期の土器・石器・丸木船・貝殻などが見つかっている。

中期は遺跡の密度が少なく、青谷町では青谷第1遺跡で土器が出土している程度である。泊村内では当該期の遺構・遺物は確認されていない。中部域を見渡しても、前述した島遺跡や倉吉市平林遺跡、北条町船渡遺跡などが知られているに過ぎない。

後期になるとラグーン周辺や河川流域で遺跡数は増加する。青谷町では蔵内上長谷第4所在遺跡で土器が出土している。泊村では石脇第3遺跡操り地区で後期前半の土器がピットに伴って出土しており、建物跡の可能性が指摘されている。中部域では倉吉市津田遺跡、東伯町森藤第2遺跡、関金町横峯遺跡などで、中央に石組の炉を持つ住居跡が見つかっている。このうち、森藤第2遺跡では住居跡の埋土中から土偶が出土している。また、東郷町北福第3遺跡などでは磨消鏡文土器などが表記されている。

晩期の遺跡では、青谷町の青谷上寺地遺跡で土器が出土しており、泊村宮の山遺跡では繩文時代晩期の土器とともに石鍤などの石器類が出土している。中部域では倉吉市松ヶ坪遺跡で配石墓や土器棺墓が検出され、羽合町長瀬高浜遺跡・北条町北尾遺跡・大栄町谷原遺跡などでは束帯文土器などが出土している。

鳥取県内にも弥生時代の早い段階に稻作文化が伝播したと考えられ、米子市久美遺跡では弥生時代前期の水田跡が確認されている。青谷町では当該期の遺構・遺物は確認されていない。泊村では石脇字前田から前期末から中期初め頃のものと推測される肩刺石剣が子持勾玉と共に出土している。県中部域では、長瀬高浜遺跡で他地域に先行して集落が成立し、全国的にも古い時期の土作工房跡や土壙墓などが見つかっており、倉吉市イキス遺跡と共に木葉文が描かれた土器も多く出土している。

中期では、青谷町の青谷上寺地遺跡が特筆される。遺跡は低湿地に位置するため遺物の遺存状況が良く、弥生時代の人骨が出土した土壙墓や祭祀関連遺構、多量の土器や石器、木製品や金属製品などの弥生時代中期から古墳時代前期を中心とする遺物が出土している。泊村内では当該期の確実な遺構・遺物は確認されていない。中部域では長瀬高浜遺跡に土壙墓がわずかに存在する以外に現在のところ東郷池周辺で遺跡は見つかっていないが、この時期の遺跡は天神川を潤った丘陵や台地上にあり、羽合町宇野第5遺跡では土器が見つかっており、倉吉市うちなかわ・かわこうしゅら後中尾遺跡には環濠集落が営まれる。

後期には青谷町カヤマ遺跡や泊村の宇野第1遺跡からは竪穴住居跡が出土し、園西川遺跡では土坑が見つかっている。東郷池周辺の遺跡は丘陵上に集中し、羽合町南谷ヒジリ遺跡や南谷大山遺跡、倉吉市福庭遺跡などの多

くの遺跡で堅穴住居跡を中心とする集落が調査されている。しかし、低地では羽合町和助北遺跡で赤色塗彩された脚付注口土器が見つかっている程度である。墳墓では木棺墓や土壙墓などの集団墓から卓越した墳丘墓が出現し、倉吉市阿弥寺大寺1～3号墳丘墓、藤と埴丘墓、東郷町宮内1号墳丘墓などは四隅突出型墳丘墓と呼ばれる特異な形態を呈している。また、県中部域では銅鐸の出土例が多く、青谷町青谷上守地遺跡で破片が3点(実録鉢IV式)見つかり、泊村沢ノ谷第2遺跡でも青銅の舌を2本伴って1口(実録付鉢I式)出土している。また、倉吉市小田で2口(実録付鉢II式・扁平鉢式)、北条町米里で1口(実録付鉢式)、東伯町八瀬でも1口(外縁付鉢I式)の銅鐸が見つかっており、東郷町北福第1遺跡・羽合町長瀬高浜遺跡からは小銅鐸が1口ずつ出土している。

弥生時代後期から古墳時代中期にかけて泊村の寺戸第2遺跡や石脇第1遺跡・石脇第3遺跡森末地区に多くの堅穴住居が作られている。中期には新たに小浜ワラ畠遺跡に堅穴住居が作られるようになる。

古墳時代前期の東郷湖周辺は、橋津古墳群(馬ノ山古墳群)・長瀬高浜古墳群をはじめとして、県下でも有数の古墳密集地である。主な前期古墳には、復元全長100mを測る前方後円墳である橋津(馬ノ山)4号墳があり、三角縁神獸鏡を含む多数の副葬品が出土している。泊村には、全長33mと小規模ではあるが前方後円墳の石脇2号墳(尾尻古墳)があり、偽装斜縁神獸鏡が1面出土している。長瀬高浜遺跡では、古墳時代前期に230棟ほどの堅穴住居、45棟の掘立柱建物を持つ大集落が出現する。この集落は中期中頃にはその規模が縮小し、集落廃絶後は古墳時代後期まで古墳が築造される。

中期には東郷池東岸には全長95mに復元される宮内塚原古墳、南岸には全長110mの野花北山1号墳など、県内でも最大規模の前方後円墳が築造されており、古墳時代前期から中期にかけて東郷池周辺が東伯者の中心地であったことが分かる。この時期の集落としては宇谷第1遺跡で中期前葉～中葉、南谷大山遺跡で中期後半の堅穴式住居跡が見つかっている。

後期になると大型前方後円墳は姿を消して小規模な古墳が盛んに築造され、群集墳を形成するようになる。また、従来の堅穴系の埋葬施設に代わり横穴式石室が導入されて主流となっていく。泊村には全長約33mの前方後円墳の石脇8号墳が築かれ、計7基が調査されている笠原古墳群、宇谷古墳群・石脇古墳群など扁平板石頭石室を持つものも知られている。青谷町では全長約34mの前方後円墳である長尾鼻古墳群、全長28mの前方後円墳の東山古墳(青谷2号墳)、全長約24mの前方後円墳の阿古山2号墳や線刻壁画が残る阿古山22号墳を有する阿古山古墳群、鷹野古墳群や篠谷古墳群、100基以上の古墳あり船の線刻壁画が見つかった吉川43号墳を有する吉川古墳群、1号墳と7号墳が調査された長谷古墳群などの多くの古墳群が存在している。遺跡としては、青谷第1遺跡、大口第1・第2・第3遺跡、カヤマ遺跡、早牛遺跡が主なものである。横穴墓は東郷町宮内・川上などに存在するが、多くは未調査で詳細は不明である。古墳以外では東郷町の埴見中ノ谷古墳群が挙げられる。6世紀前葉の窯跡でこの地域で須恵器を生産したことが分かれる数少ない遺跡の一つである。

白鳳期には、仏教思想の高まりとともに全国的に多くの寺院が建立され、7世紀中頃に倉吉市大御堂廃寺、東郷町の野方・弥陀ヶ平寺が、後半には東伯町畜尾庵・倉吉市大原廃寺が造営される。

奈良時代になると現在の倉吉市国府に伯耆郡が置かれ、その周辺に伯耆國分寺、國分尼寺も建立される。この時代の集落跡には、掘立柱建物を中心とする倉吉市觀音堂遺跡・大栄町向野遺跡、堅穴住居を中心とする倉吉市平ル林遺跡などがある。奈良時代の遺跡は発掘調査例が少なく、青谷町ではカヤマ遺跡で土器などが出土しているのみであり、泊村では石脇第3遺跡森末地区1区から堅穴住居跡、寺戸第1遺跡では堅穴住居跡や製塙土器が出土した段状造構などが出土し、小浜小谷遺跡では土坑内から須恵器が出土している。

律令体制下では因幡國気多郡に大原・坂本・口沼・勝見・大坂・日置・勝部の七郷が置かれたが、青谷町は日置郷と勝部郷に相当すると考えられる。郡衙は大坂郡にあたる高町の上原遺跡と考えられている。また、伯耆國河村町は笏賀・舎人・多駿・埴見・日下・河村・竹田・三朝の八郷からなり、泊村は笏賀郷に属する。笏賀郷は「平城宮跡出土木簡」にもその名が見える。郡衙の所在地は不明であるが、河村郷にあたる東郷町の野方ないし久見付近にあったと推測されている。また、羽合平野や北条平野を中心に古代律令体制の名残としての条里遺

構が残っているが長瀬高浜遺跡ではこの条に對応しない墓跡が確認されている。

奈良時代には官道が整備され、因幡・伯耆両国には山陰道が設けられるが、因幡国内に置かれた4ヶ所の駅のうち、青谷町の相屋神社周辺は延喜式にみえる「柏尾駅」の有力な候補地と云われる。また、泊村の石塚は「久塚」という小字の存在から伯耆国内に置かれていた「易賣駅」の存在が有力視されていたが、石塚第3遺跡森木地区1区から見つかった平安時代以後の遺構とされる掘立柱建物跡や溝状遺構が駅家と関連するものと考えられている。

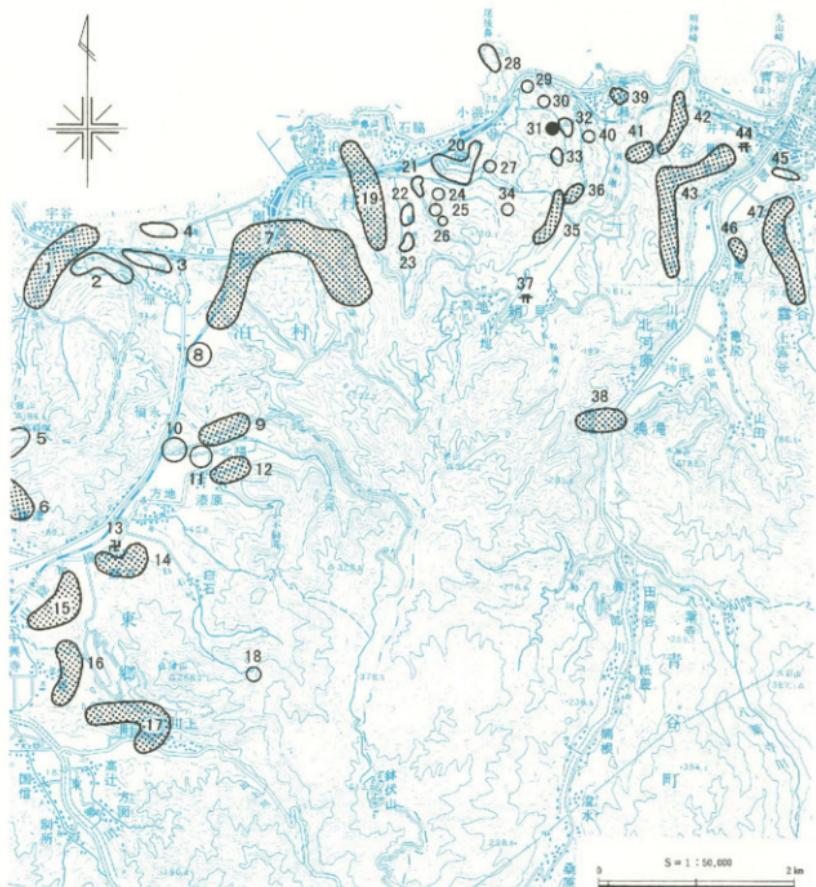
平安時代末期になると末法思想が広まり、経塚が作られるようになる。東郷町後文神社境内に隣接した丘陵から発見された伯耆一宮経塚からは1103年に当たる「(中略)銘を持つ銅製經筒・銅製觀音菩薩立像・銅製手觸音菩薩立像・銅製刻赤勒菩薩立像などが出上し、一括して国宝に指定されている。発掘調査例は多くないが、泊村の石塚第3遺跡森木地区1区では奈良時代以降とされる掘立柱建物跡や溝状遺構が出土し、寺戸第1遺跡では掘立柱建物跡が段状遺構や溝状遺構などと共に検出されている。

鎌倉時代初期の建久5(1194)年には伯耆国 笹原庄と呼ばれる莊園が藤原氏の所領であったが、武士の勢力が次第に強くなり、正治2(1258)年銘の「伯耆国河村都東郷庄下地中分縫図」では領家の京都松尾社と原田氏とされる地頭による莊園分割が描かれ、地頭の在園侵略の様子や当時の東郷池周辺の地理などが窺われる。集落跡としては倉吉市今倉遺跡の住居跡があり、また、中世貝塚が東郷町門田遺跡・羽合町南谷貝塚遺跡で見つかっている。長瀬高浜遺跡では、鎌倉から安土桃山時代の火葬墓や土壙墓と水跡が調査されている。

南北朝時代の延元2〔=建武4〕(1337)年に伯耆守護、正平18〔=貞治2〕(1363)年には因幡守護にも任じられ、伯耆・因幡両国に勢力を誇った山名時氏は、伯耆國統治の拠点となる守護所として倉吉市田内に田内城を築いたとされる。また、正平21〔=貞治5〕(1366)年南条貞宗によって東郷町に羽衣石城が築かれたと云われている。山名氏はその後倉吉市の打吹城に城を移したが、天文4(1524)年に出雲の尼子経久が伯耆に侵入して打吹城を落城させたことで山名氏の伯耆支配は終わりを迎えた。その後、尼子氏に替わって毛利氏が因幡・伯耆両に勢力を拡げるが、天正9(1581)年、鳥取城を包廻し兵糧攻めを行った羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)の背後を突くべく出陣した吉川元春が築いたとされる上墨が馬ノ山に残っている。その後、青谷町城が含まれる氣多郡は鹿野城主の龜井茲矩、泊村城が含まれる河村郡などの東伯者は羽衣石城主の南条元統が領有した。

慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いで西軍に属した伯耆の南条氏は除封され、伯耆一国を中村一忠が領有して米子城を新たに築くが、中村一忠は慶長14(1609)年病没したため領地没収となり、その後数年間、河村郡は幕府領に編入された。元和元(1615)年に中部地域の城は一国一城令に伴いすべて取り壊される。元和3(1617)年、姫路藩主であった池田光政が因幡・伯耆2国の鳥取藩主となるが、寛永9(1632)年に岡山藩主の池田光仲が国替えによって鳥取藩主に転封となり、以後明治維新まで鳥取藩は池田氏の統治下に置かれた。江戸時代末期には日本海沖にも外国船が頻繁に出没し始め、鳥取藩でも沿岸防備のため文久3(1863)年から砲台設置に着手し、海岸線に8基の台場が建設された。県中部では赤崎、由良、橋津に築かれている。このうち由良台場は西洋式の城塞プランが取り入れられており、藩建造の台場としてはきわめて異色で貴重なものである。

明治4(1871)年、廢藩置県により鳥取藩は無くなり新たに鳥取県が出来る。明治9(1876)年に鳥取県は島根県に合併され無くなるが、明治14(1881)年には再び鳥取県が分離・組織され、今日に至る。



○ 遺跡

○ 古墳群 开 神社 卍 寺院

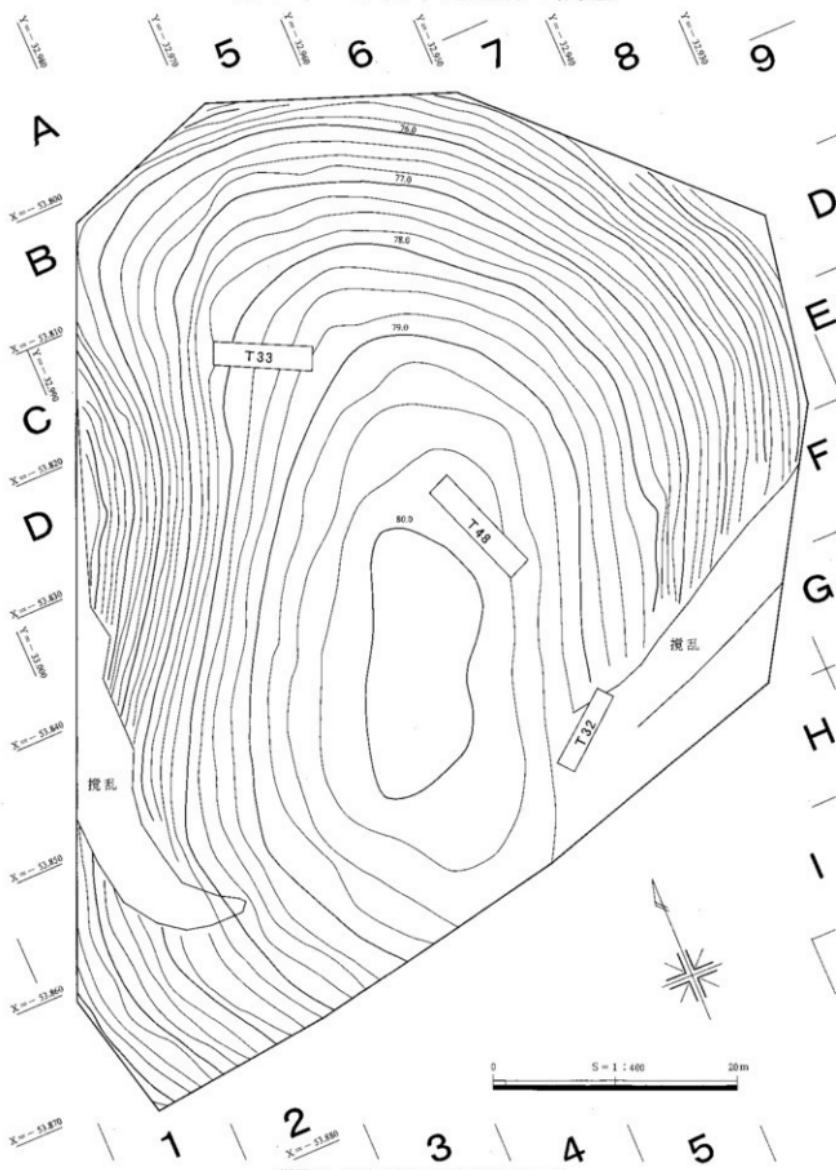
- | | | | |
|------------|----------------|---------------|-------------|
| 1. 宇谷古墳群 | 13. 野方・弥陀ヶ平廃寺 | 25. 寺戸第2遺跡 | 37. 幌井神社 |
| 2. 宇谷第1遺跡 | 14. 野方古墳群 | 26. 寺戸第3遺跡 | 38. 鳴滝古墳群 |
| 3. 原第2遺跡 | 15. 中興寺古墳群 | 27. 小浜ワラ畑遺跡 | 39. 長和瀬古墳群 |
| 4. 浜山第2遺跡 | 16. 久見古墳群 | 28. 尾後遺跡 | 40. 長和瀬谷田遺跡 |
| 5. 宮内遺跡群 | 17. 川上古墳群 | 29. 池ノ谷西平第1遺跡 | 41. 長谷古墳群 |
| 6. 藤津古墳群 | 18. 白石第1遺跡 | 30. 池ノ谷西平第2遺跡 | 42. 井手古墳群 |
| 7. 園古墳群 | 19. 石脇古墳群 | 31. 小浜千速遺跡 | 43. 吉川古墳群 |
| 8. 原第1遺跡 | 20. 石脇第3遺跡森末地区 | 32. 池ノ谷第1遺跡 | 44. 相屋神社 |
| 9. 北福古墳群 | 21. 宮の山遺跡 | 33. 池ノ谷第2遺跡 | 45. 青谷上寺地遺跡 |
| 10. 北福第1遺跡 | 22. 石脇第1遺跡 | 34. 笹谷遺跡 | 46. 亀尻古墳群 |
| 11. 北福第3遺跡 | 23. 石脇第2遺跡 | 35. 小浜古墳群 | 47. 霧谷古墳群 |
| 12. 漆原古墳群 | 24. 寺戸第1遺跡 | 36. 金ノ口古墳群 | |

挿図2 周辺遺跡分布図

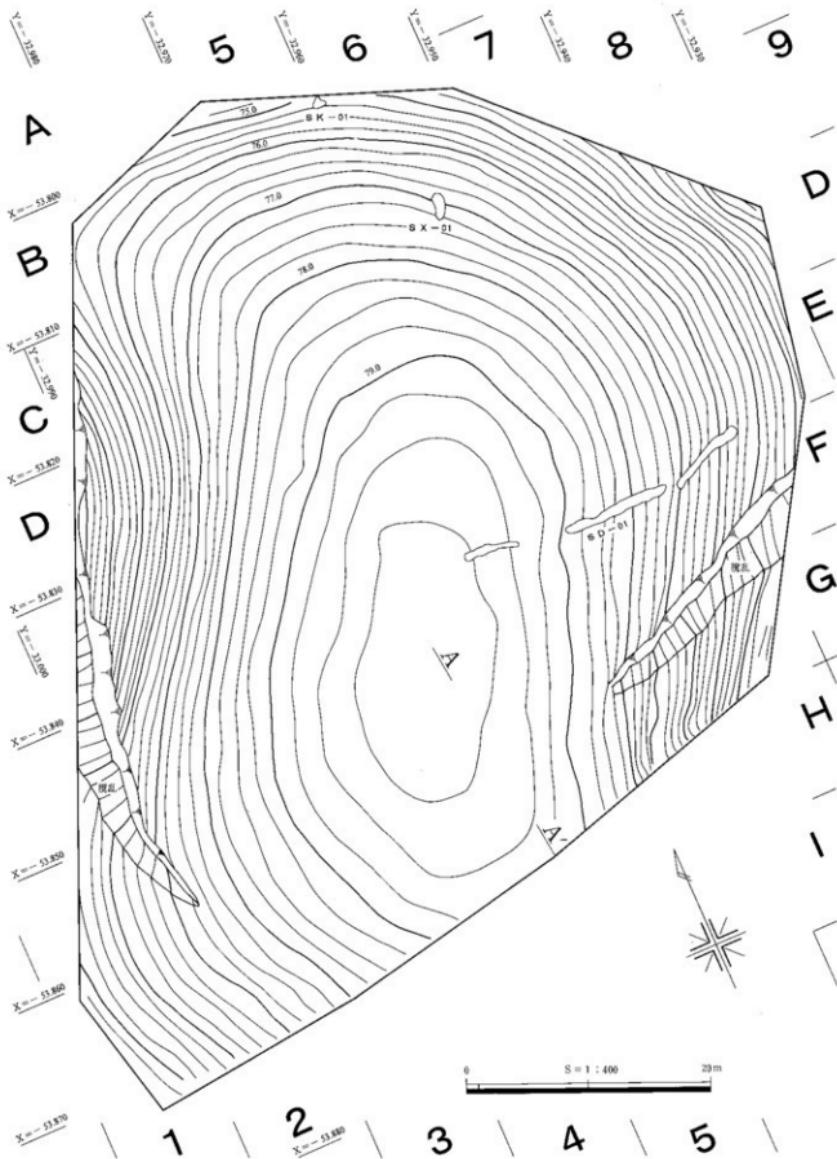
参考文献

1. 泊村教育委員会『泊村内遺跡発掘調査報告書』 1989
2. 泊村『泊村誌』 1989
3. 泊村教育委員会『園古墳群発掘調査報告書』 1990
4. 泊村教育委員会『泊村内遺跡発掘調査報告書』 1996
5. 泊村教育委員会『泊村内遺跡発掘調査報告書』 1997
6. 東郷町教育委員会『津浪遺跡発掘調査報告書』 1974
7. 東郷町教育委員会『佐美4・13号墳発掘調査報告書』 1979
8. 東郷町教育委員会『片平5号墳発掘調査報告書』 1977
9. 東郷町『東郷町史』 1987
10. 羽合町『羽合町史』前編 1967
11. 羽合町教育委員会『南谷18号墳発掘調査報告書』 1988
12. 羽合町教育委員会『羽合町内遺跡発掘調査報告書』 1989
13. 羽合町教育委員会『南谷所在遺跡群(大ナル地区・ヒジリ地区)』 1990
14. 羽合町教育委員会『南谷貝塚遺跡発掘調査報告書』 1990
15. 羽合町教育委員会『天保14年伯耆国河村郡南谷村山畠地続全国』
16. 北条町教育委員会『曲古墳群発掘調査報告書』 1981
17. 北条町教育委員会『島遺跡発掘調査報告書』第1集 1983
18. 北条町教育委員会『土下古墳群遺跡発掘調査報告書』第1集 1983
19. 北条町教育委員会『北尾遺跡発掘調査報告書』第1集 1987
20. 倉吉市教育委員会『伯耆国分寺発掘調査概報』 1973
21. 倉吉市教育委員会『伯耆国広跡発掘調査概報(第3次)』 1975
22. 倉吉市教育委員会『伯耆国広跡発掘調査概報』第3次・第5次・第6次 1975~1978
23. 倉吉市教育委員会『大宮古墳発掘調査概報』 1979
24. 倉吉市教育委員会『上米積遺跡発掘調査報告II 一阿弥大寺地区』 1980
25. 倉吉市教育委員会『高鼻2号墳(離手2号墳)発掘調査報告書』 1982
26. 倉吉市教育委員会『立鍵遺跡群 取木遺跡 一反半田遺跡発掘調査報告書』 1984
27. 倉吉市教育委員会『津田跡発掘調査報告書』 1986
28. 倉吉市教育委員会『史蹟大原院寺跡第2次発掘調査概報』 1988
29. 大栄町教育委員会『上種第5遺跡発掘調査報告書』 1985
30. 東伯町教育委員会『森藤第1・森藤第2遺跡発掘調査報告書』 1987
31. 三朝町教育委員会『三朝高原穴谷遺跡発掘調査報告書』 1976
32. 関金町教育委員会『横峯遺跡発掘調査報告書』 1986
33. 米子市教育委員会『久目久遺跡』 1986
34. 烏取県教育文化財団『久古第3遺跡・貝田原遺跡・林ヶ原遺跡発掘調査報告書』 1984
35. 烏取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書』II~VI 1981~1983
36. 烏取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書』IV墳編 1982
37. 烏取県教育文化財団『園西川遺跡・園7号墳・原第2遺跡』 1993
38. 烏取県教育文化財団『石脇第3遺跡・石脇8・9号墳・寺戸第1遺跡・寺戸第2遺跡・石脇第1遺跡』 1998
39. 烏取県教育文化財団『小浜ワラ畑遺跡・小浜小谷遺跡・池ノ谷第2遺跡』 1999
40. 烏取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡』、園6遺跡』 1999
41. 烏取県埋蔵文化財センター『弥生時代の鳥取県』 1985
42. 烏取県埋蔵文化財センター『旧石器・縄文時代の鳥取県』 1988
43. 烏取県教育委員会『鳥取縣文化財調査報告書』第1集 1960
44. 烏取県教育委員会『東郷町大森遺跡』『埋蔵文化財発掘調査概報』 1973
45. 烏取県教育委員会『青木遺跡発掘調査報告書III A・B・E・H地区』 1978
46. 烏取県教育委員会『鳥取縣裝飾古墳分布調査概報』 1981
47. 烏取県教育委員会『鳥取縣生産遺跡分布調査報告書』 1984
48. 梅原末治『因伯二国に於ける古墳の調査』『鳥取県史蹟勝跡調査報告』第二冊 1924
49. 舟光清六『伯耆八幡町銅山山遺跡』『考古学雑誌』第23巻4号 1933
50. 佐々木謙他『倉吉市福庭遺跡』 1970
51. 佐々木謙・龜井照人『原始古代編』『鳥取県史』I 鳥取県 1972
52. 名越勉・甲斐忠彦『鳥取県東郷町出土の小銅鐸』『考古学雑誌』第59巻2号 1973
53. 名越勉『原始・古代』『倉吉市史』 1973
54. 山陰考古学研究所『山陰の前期古墳文化の研究』I 1978
55. 真田廣幸「奈良時代の伯耆国に見られる軒瓦の様相」『考古学雑誌』第66巻2号 1980
56. 『角川日本地名大辞典31 鳥取県』角川書店 1982
57. 『鳥取県大百科事典』新日本海新聞社 1984
58. 真田廣幸「伯耆國大御堂寺考」『山陰考古学の諸問題』 1986

第3章 小浜千速遺跡の調査



挿図3 小浜千速遺跡調査前地形測量図



挿図4 小浜千速遺跡調査後地形測量図



挿図5 調査地内南北断面図

第1節 調査の概要

小浜千速遺跡は日本海に向けて伸びる尾根筋上の標高72m～80mにかけて位置する。尾根筋を挟む東西両斜面とも傾斜がかなり急である。検出された遺構は、時期不明の土坑1基（SK-01）、弥生土器ないし土師器の破片を含むが不整形で浅い土坑状の不明遺構1基（SX-01）、尾根東側の斜面部にあり道の可能性が推測される時期不明の溝状遺構1条（SD-01）である。遺物では遺構外から縄文土器数点と弥生時代末から古墳時代初頭にかけての土器が若干と鉄斧1点が出土した。

第2節 土坑・不明遺構

SK-01 (挿図6 図版1)

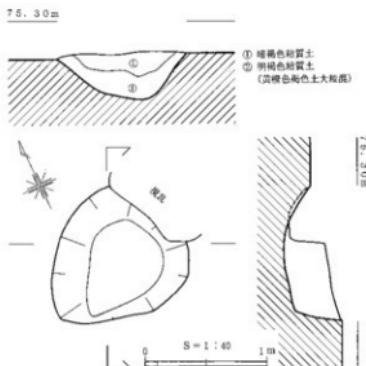
調査地北端のA-6グリッド北西隅にあり、南北方向に延びる尾根筋上の標高75.2m付近に位置する。地形は北に向けて緩やかに下る。

東側の一部は木根による搅乱を受けているが、残存部での平面形は、検出面形・底面形とも隅丸三角形状、断面形は楔状を呈する。規模は、検出面で長軸1.22m×短軸1.08m、底部では長軸0.84m×短軸0.63mを測り、深さは最大0.54mである。

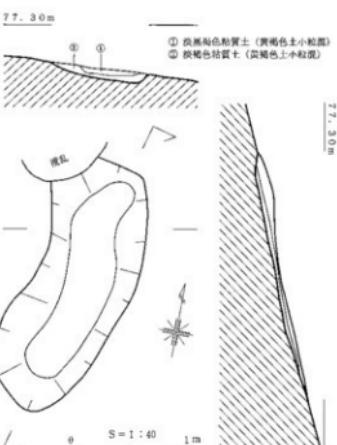
埋土は2層に分層できた。遺物は全く出土していないため時期を判断することは出来ない。用途は不明である。

SX-01 (挿図7 図版1)

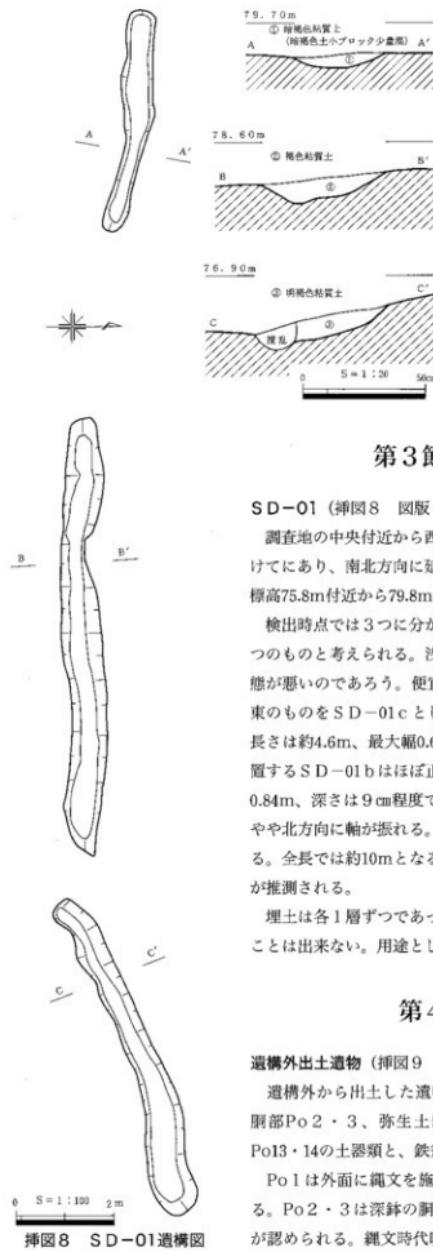
調査地北東寄りのC-6グリッド北寄りにあり、南北方向に延びる尾根筋上の標高77.2m付近に位置する。地形は北に向けて緩やかに下る。



挿図6 SK-01遺構図



挿図7 SX-01遺構図



押図8 SD-01遺構図

北西側の一部は木根による擾乱を受けているが、残存部での平面形は、検出面形・底面形ともに不整な長楕円形状、断面形浅い皿状を呈する。規模は、検出面で長軸2.16m×短軸0.84m、底部では長軸1.75m×短軸0.37mを測り、深さは最大で0.12mである。しかし、緩斜面に位置しているため検出面最高所と底面最低所では0.43mの高低差が存在する。

埋土は2層に分層できた。埋土中からは葬生土器ないし土師器の胸部片と考えられるものが若干出土したが、図化は出来なかった。遺構の時期は出土遺物から弥生時代以降のものと考えられるが特定は出来ない。用途は不明である。

第3節 調査の経過と方法

SD-01 (押図8 図版1)

調査地の中央付近から西側のF-5グリッドからE-F-8グリッドにかけてあり、南北方向に延びる尾根筋に直交するように位置し、尾根東側の標高75.8m付近から79.8m付近にかけて断続的に検出された。

検出時点では3つに分かれていたが、ほぼ軸線上に捕うことから本来は1つのものと考えられる。浅い遺構であったため、削平や流失を受け、遺存状態が悪いのであろう。便宜上、西のものをSD-01a、中央をSD-01b、東のものをSD-01cとして記述する。SD-01aはほぼ東西方向を向き、長さは約4.6m、最大幅0.64m、深さは5cm程度である。その約3.8m東に位置するSD-01bはほぼ正確に東西方向に伸びており、長さ約9m、最大幅0.84m、深さは9cm程度である。さらに約1.1m東に位置するSD-01cは、やや北方向に軸が振れる。長さ約6.8m、最大幅0.82m、深さは10cm程度である。全長では約10mとなるが、本来は東・西方向にそれぞれ続いていることが推測される。

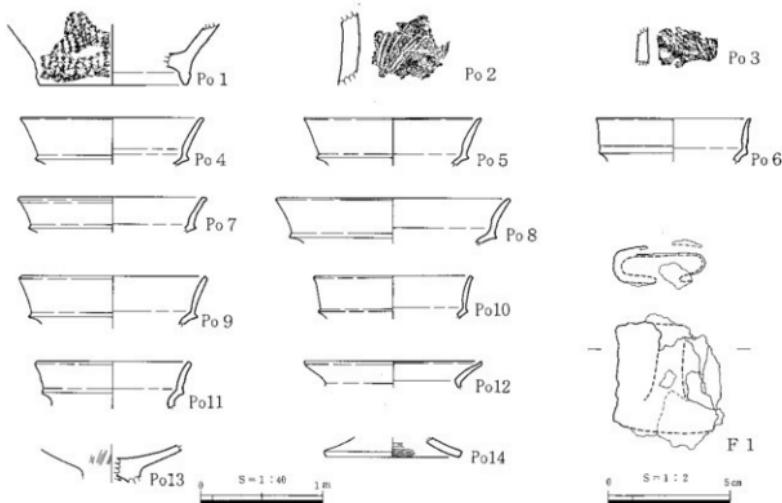
埋土は各1層ずつであった。遺物は全く出土しておらず、時期を判断することは出来ない。用途としては道として利用されたと推測される。

第4節 遺構外の遺物

遺構外出土遺物 (押図9 図版2)

遺構外から出土した遺物の内、図化出来たものに縄文土器の底部Po1、胸部Po2・3、弥生土器の甕Po4～6、土師器の甕Po7～12、高杯Po13・14の土器類と、鉄斧F1である。

Po1は外面に縄文を施す「上げ底」の底部で、縄文時代中期のものである。Po2・3は深鉢の胸部片と推測されるもので、外面に条痕らしき痕跡が認められる。縄文時代晩期のものであろう。Po4～6は複合口縁甕であ



挿図9 遺構外出土遺物実測図

挿表1 遺構外出土土器観察表

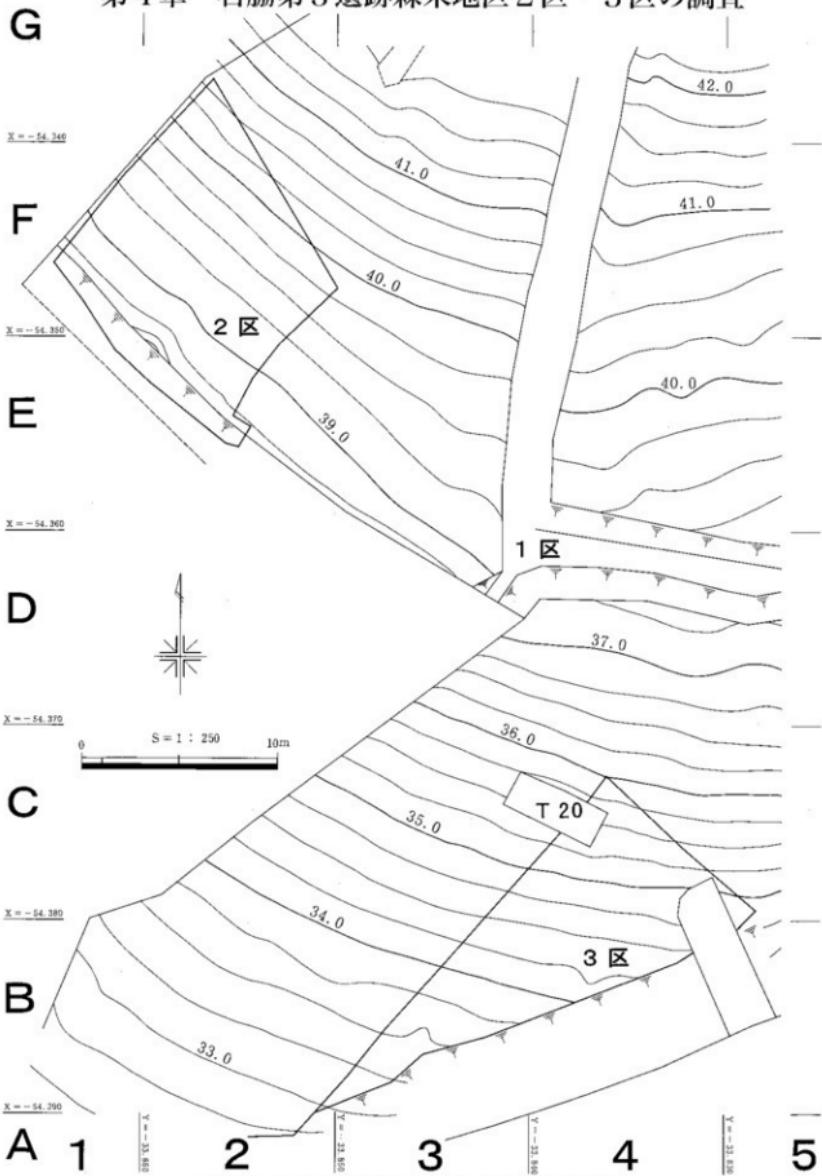
遺物番号 神岡番号	図版 番号	遺構名	種類	断面	法 量 (cm)	形態上の特徴 外面表面	内面 表面	内面色調	外面色調	胎土・焼成	取上№	実測者№
Po 1 9	2	遺構外	圓文土器 底部	①△12.0 ③△5.0	横方向に凹凸する圓文底部ナデ	ケズリ後ナデか(不明瞭)	オリーブ 黒色	橙色～灰 黄色	やや粗(2～4mmの 砂粒多量混)	良好	6	西川-14
Po 2 9	2	遺構外	圓文土器 肩部	②△6.1	ナデ後貝殻製除による冬	ナデ		にぶい橙色	やや粗(2～4mmの 砂粒混)	良好	17	西川-12
Po 3 9	2	遺構外	圓文土器 底部	②△3.0	ナデ(条痕しき痕跡あ り)	ケズリ後ナデか(不明 瞭)	にぶい黄 橙色	オリーブ 黒色	やや粗(2～5mmの 砂粒混)	良好	13	西川-13
Po 4 9	2	遺構外	器生 裏	①△15.0 ③△3.9	横ナデ	横ナデ。LI疊縫部や やくナデで面状と なる。強烈なナデ	にぶい橙色	密・良			13	西川-4
Po 5 9	2	遺構外	甕	①△14.4 ③△4.0	横ナデ	横ナデ。強烈な横ナデ で段状を有する	にぶい黄橙色	密・良好			13	西川-3
Po 6 9	2	遺構外	赤半 甕	①△12.5 ③△3.6	口縁部風化のため調査不 ^明 一糸の痕跡あり、底面あり	横ナデ	灰白色	密・良			5	西川-9
Po 7 9	2	遺構外	赤牛込末 ～土師器	①△15.6 ③△4.0	赤ナデ。全体に調整不 ^明 底面	横ナデ。全体に調査 不明瞭	明黄褐色	やや粗(砂粒少量 混)	良好		6	西川-6
Po 8 9	2	遺構外	土師器 甕	①△19.4 ③△3.7	横ナデ	横ナデ	にぶい黄橙色	密(砂粒少量 混)	良好		2	西川-1
Po 9 9	2	遺構外	土師器 甕	①△15.6 ③△4.0	横ナデ。小刻離全体に多 数存在	横ナデ	黄褐色	やや粗(砂粒多量 混)	良好		14	西川-2
Po 10 9	2	遺構外	土師器 甕	①△13.2 ③△3.6	横ナデ	横ナデ	にぶい黄橙色	密・良好			1	西川-8
Po 11 9	2	遺構外	土師器 甕	①△12.8 ③△4.0	横ナデ。全体的に小刻 離が多く存在	横ナデ。全体的に小刻 離が多く存在	にぶい黄橙色	密(砂粒混)	良好		9	西川-5
Po 12 9	2	遺構外	土師器 甕	①△14.4 ③△2.3	横ナデ	横ナデ。強烈ケズリ あり	オリーブ 褐色	オリーブ 褐色	密・良好		18	西川-7
Po 13 9	2	遺構外	土師器 高杯?	②△3.1	口縁部タハケ。底部に かけ横ナデ。あるいは ミガキ	底底部ナデ。あるいは ミガキ	にぶい橙色	やや粗(1mm程度の 砂粒多量混)	良好		3	西川-10
Po 14 9	2	遺構外	土師器 高杯?	②△1.7	風化のため調査不 ^明	ヨコハケ	明赤褐色	密(1～2mmの砂 粒混)	良好		20	西川-11

挿表2 遺構外出土土器観察表

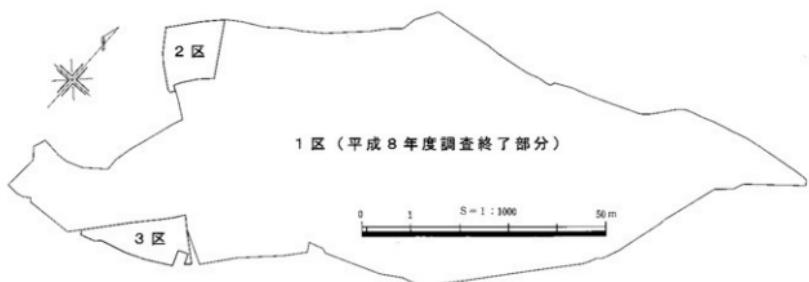
遺物 番号	押印 番号	図版 番号	出土位置	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	形態上の特徴	取上№	備考	実測者№
F 1 9	2	遺構外	袋状鉄斧	4.5	△ 4.5	△ 1.5	1.5	方形形状を呈する	15	結による調節が著しい	西川-15

るが、いずれも肉薄でシャープな作りであるが頸部以下が遺存していないため細部形態は不明である。口縁端部は引き出されたように丸みを持って終わる。大山編年のIV期に相当し、弥生時代終末期のものであろう。Po7～11も複合口縁臺であり、肉薄でシャープな作りであるが口縁端部に平坦面を持つ。Po7は外側に肥厚する。大山編年のV～VI期に相当し、古墳時代初頭期のものであろう。Po12は「く」字状口縁をもつ甌で、外湾気味に立ち上がり端部が内方へ肥厚する。布留式系統の影響を受けていると考えられる。大山編年のVI期に相当する。Po13・14については時期を判断できない。F1小型の袋状鉄斧で、図の右側が欠損し、さらに錯による剥離が生じているため細部の検討が困難である。川越氏の見解に基づき残存部から判断すると、基部幅と刃部幅は刃部幅がやや広い程度で平面形は方形状である。袋部の横断面形は楕円形状で、折り返しの両端は接せず開いており、国産品と考えられる。遺構・遺物に伴っておらず、時期の特定は出来ないが、遺跡内からは少量ながら大山編年のIV～VI期の土器が出土していることから弥生時代終末期から古墳時代初頭期にかけての時期ではなかろうか。

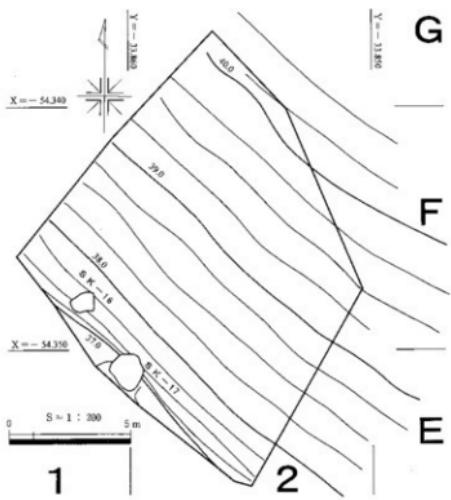
第4章 石脇第3遺跡森末地区2区・3区の調査



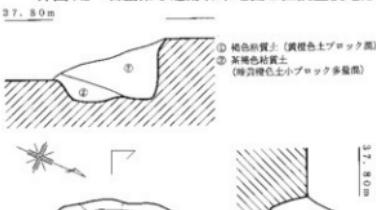
挿図10 石脇第3遺跡森末地区2区・3区調査前地形測量図



挿図11 石脇第3遺跡森木地区調査区位置図



挿図12 石脇第3遺跡森木地区2区調査後地形測量図



挿図13 SK-16遺構

第1節 調査の概要

石脇第3遺跡森木地区2区および3区は旧山陰道の推定地である狭い谷筋に臨む丘陵南東側の緩斜面途中に位置し、平成8年度の調査地（区分のため森木地区1区とする）に隣接する2ヶ所の調査区である。同じ遺跡のため、遺構番号は前回調査時の番号に継続して設定した。

2区（1区の西側）は近年の果樹栽培のために大規模な擾乱を受けていた。2区から検出した遺構は、用途不明の土坑1基（SK-16）と落し穴である土坑1基（SK-17）の計2基の上坑のみである。遺物としては、中世の瓦質土器、土師質土器などが若干出土したのみである。

3区（1区の東側）は南西側が道路幅拡に伴って大きく削平を受けている。本来は谷底に向

けて緩斜面が続いていたと考えられる。3区から検出した遺構は、用途不明の土坑6基（SK-18～23）、段状遺構1基（SS-05）、溝状遺構1条（前回調査時のSD-06に続く部分）、ピットである。遺物のはほとんどはSS-05から出土したもので、土師器・須恵器を中心とする管玉が1点含まれていた。

第2節 2区土坑

SK-16（挿図13 図版3）

2区西側のF-1グリッド南西寄りにあり、南西方向に下る緩斜面の標高37.6m付近に位置する。

土坑の南西側は後世の畑地造成に伴う削平を受けている

が、残存部での平面形は、検出面形は不整な方形状、底面形は不整な円形状、断面形は底部中央が高くなる逆台形状を呈する。規模は、検出面で長軸1.03m×短軸0.81m、底面は長軸0.63m×短軸0.62mを測り、深さは最大で0.64mである。

埋土は2層に分層できた。遺物は全く出土しておらず、時期を判断することは出来ない。用途は不明である。

SK-17 (押図14 図版3)

2区南西側のE-1グリッド北隅からE-2グリッドにまたがり、南西方向に下る緩斜面の標高37.4m付近に位置する。

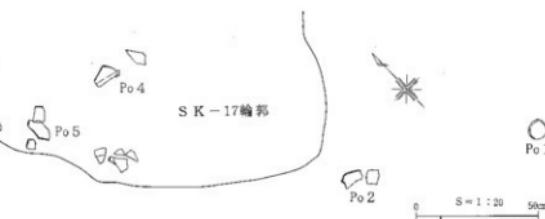
土坑の南西側は後世の畠地造成に伴う削平を受けて半分以上失われている。残存部での平面形は、検出面形・底面形ともに不整な五角形状である。本来は方形形状ないし長方形形状を意図しながら土坑東側の掘り下げを不十分なまま掘り下げを終了したのであろう。断面形は逆台形状と推測される。規模は、検出面で長軸1.42m×短軸1.40m、底面では長軸0.96m×短軸0.81mを測り、底面までの深さは最大で1.20mである。また、底面中央から上縁部径26cm、深さ55cmを測る底面ピットを検出した。

埋土は8層に分層できた。遺物は全く出土していないが、土坑の形態から縄文時代頃の落し穴と推測される。

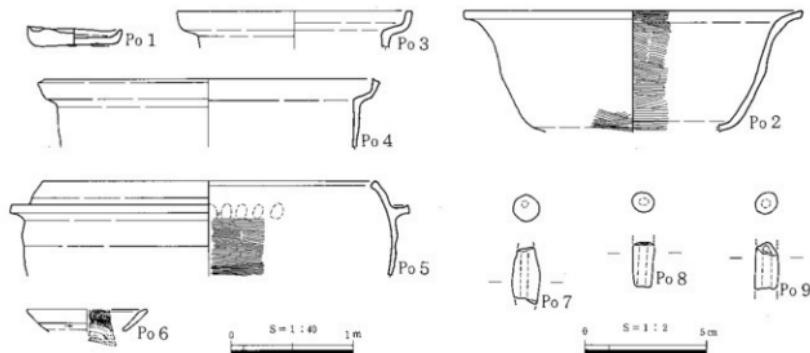
第3節 2区遺構外の遺物

遺構外出土遺物 (押図15・16 図版3)

遺構外からは土師質土器ⅢPo1、土師質土器ⅢPo2・3、瓦質土器ⅢPo4、瓦質土器ⅢPo5、陶器卸皿Po6、土製品の土鍤Po7~9が出土した。このうち、Po1~5は調査区南西端のE-1杭南側からまとめて出土した。13世紀代の遺物であり、SK09から出土した遺物と同時期のものである。Po6は近世以降の遺物である。



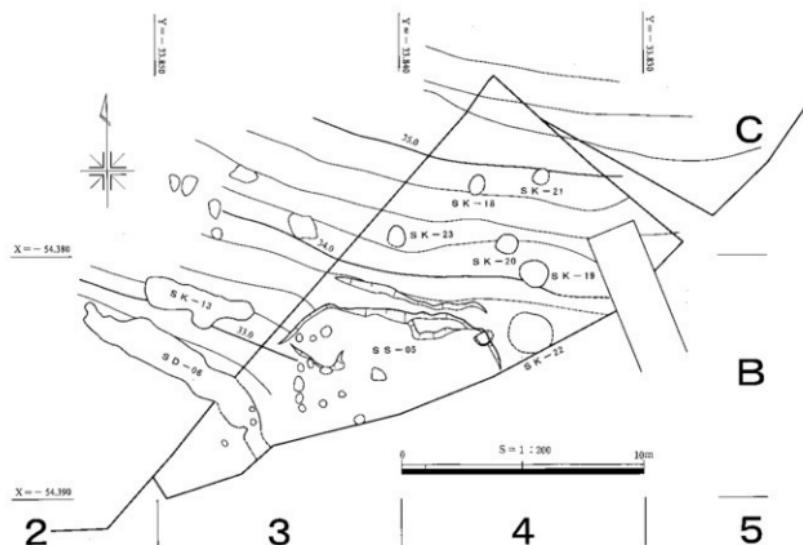
押図15 石脇第3遺跡森末地区2区遺構外遺物出土状況図



挿図16 石脇第3遺跡森木地区2区遺構外出土遺物実測図

挿図2 2区遺構外出土土器・土製品観察表

遺物番号 記版 押印番号	遺構名	種類 器 類	底 量 (cm)	形態上 の特徴 外面調整	内面 調整	内面色調	外面色調	胎 土	焼成	取上№	実測者№
Po 1 15	5 2区 遺構外	土師質土器 皿	①△7.6 ②△1.7 ③△6.9	調整不明	口縁部コナデ、 底部強いナデ	にぶい黄褐色	やや粗(砂粒 混入)・良好	149	西川-42		
Po 2 15	5 2区 遺構外	土師質土器 鍋	①△27.6 ②△10.0	口縁部炭化物のため不明 (ナデか?) 底部横方向 ハケ目。外面に炭化物広 範囲に付着	横方向のハケ目	にぶい黄褐色	密(1~3mmの砂 粒混入)・良好	18 20	西川-26		
Po 3 15	5 2区 遺構外	土師質土器 皿	①△19.0 ②△3.6	風化のため調査不明	風化のため調査不 明	浅黄色	密・やや不良	14	西川-29		
Po 4 15	5 2区 遺構外	瓦質土器 鍋	①△26.9 ②△5.7	ナデ、外曲頸部~体部に 炭化物付着	ナデ	オリーブ黒色	密(小砂粒多量 混入)・良好	20	西川-28		
Po 5 15	5 2区 遺構外	瓦質土器 羽釜	①△27.0 ②△7.9 ③△30.8	調整不明	口縁埋没ナデ。以 下に沿底圧延、体 部横方向のハケ目	灰白色~ オリーブ灰色	密(小砂粒混 入)・やや不良	19 20	西川-27		
Po 6 15	5 2区 遺構外	陶質埋直	①△9.8 ②△1.9	鉄輪	割れは残存部に4 段分。鉄輪	施釉	緻密・良好	12	西川-73		
Po 7 15	8 2区 遺構外	土製品 土瓶	⑥△2.3 ⑦△1.2 ⑧△1.1	手づくね		褐色	密・良好	11	西川-70		
Po 8 15	8 2区 遺構外	土製品 土瓶	⑥△1.9 ⑦△0.9 ⑧△0.8	手づくね		にぶい褐色	密・良好	11	西川-72		
Po 9 15	8 2区 遺構外	土製品 土瓶	⑥△2.0 ⑦△0.8 ⑧△0.9	手づくね		明赤褐色	密・良好	11	西川-71		



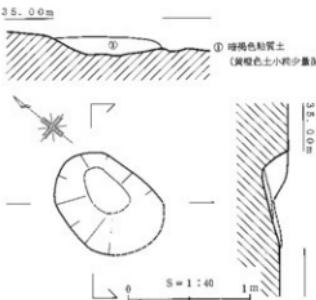
挿図17 石脇第3遺跡森末地区3区調査後地形測量図

第4節 3区土坑

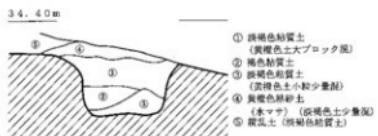
SK-18 (挿図18)

3区北側のC-4グリッド南西寄りにあり、南に向けて下る緩斜面の標高34.9m付近に位置する。土坑の南側は検出時の削平のため明確ではないが、残存部での平面形は、検出面形・底面形ともに楕円形状を呈し、断面形は浅い皿条である。規模は、検出面で長軸0.82m以上×短軸0.72m、底面では長軸0.44m以上×短軸0.26mを測り、深さは最大で0.22mである。

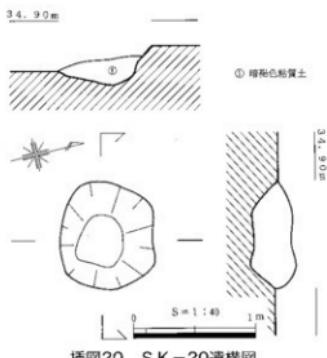
埋土は1層のみである。遺物は全く出土しておらず時期を判断することは出来ない。用途は不明である。



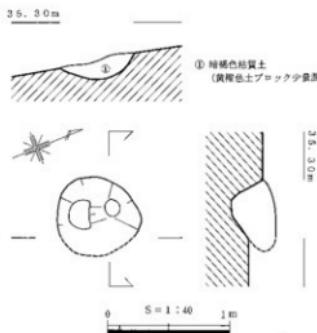
挿図18 SK-18遺構図



挿図19 SK-19遺構図



挿図20 SK-20遺構図



挿図21 SK-21遺構図

SK-19 (挿図19 図版3)

3区中央付近のB-4グリッド北端にあり、南に向けて下る緩斜面の標高34.1m付近に位置する。平面形は、検出面形は不整な円形、底面形は不整形を呈し、断面形は逆台形状である。規模は、検出面で長軸1.26m×短軸1.12m、底面では長軸0.71m×短軸0.52mを測り、深さは最大で0.48mである。土坑埋土は3層に分層できた。遺物は全く出土しておらず、時期を判断することは出来ない。用途は不明である。

SK-20 (挿図20)

3区中央付近のC-4グリッド南端にあり、南西方向に下る緩斜面の標高34.7m付近に位置する。平面形は、検出面形・底面形ともに不整な円形を呈し、断面形は逆台形状である。規模は、検出面で長軸1.00m×短軸0.76m、底面では長軸0.42m×短軸0.37mを測り、深さは最大で0.32mである。

埋土は1層のみである。遺物は全く出土しておらず、時期を判断することは出来ない。用途は不明である。

SK-21 (挿図21)

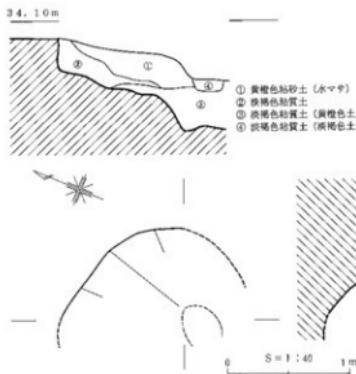
3区北側のC-4グリッド南東寄りにあり、南西方向に下る緩斜面の標高35.0m付近に位置する。土坑の南西側は検出時の削平のため明確ではないが、残存部での平面形は、検出面形・底面形ともに円形状を呈するが、南東側に段があり、断面形は不整形である。規模は、検出面で長軸0.70m×短軸0.50m以上、底面では長軸0.14m×短軸0.12mを測り、深さは最大で0.36mである。

埋土は1層のみである。遺物は全く出土しておらず、時期を判断することは出来ない。用途は不明である。

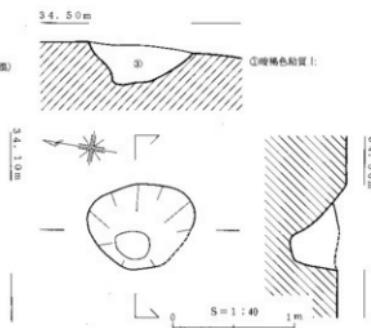
SK-22 (挿図22)

3区南側のB-4グリッドやや北寄りにあり、南西方向に下る緩斜面の標高33.9m付近に位置する。土坑北側の一部以外は検出時の削平のため明確ではないが、残存部が弧を描くことから平面形は、検出面形は円形状を呈していたと推測される。底面形についても同様であろう。断面形は不整形である。規模は、検出面で長軸1.40m以上×短軸0.76m以上を測り、深さは最大で0.76mである。底面規模は不明である。

埋土は4層に分層できた。遺物は全く出土しておらず、時期を判断することは出来ない。用途は不明である。



挿図22 SK-22遺構図



挿図23 SK-23遺構図

SK-23（挿図23）

3区北西側のC-3グリッド南東隅からC-4グリッドにまたがり、南西方向に下る緩斜面の標高34.3m付近に位置する。

土坑南側の一部が検出時の削平のため明確ではないが、残存部での平面形は、検出面形・底面形ともに不整な梢円形状を呈する。断面形は不整形である。規模は、検出面で長軸0.98m×短軸0.70m、底面では長軸0.28m×短軸0.22mを測り、深さは最大で0.46mである。

埋土は1層のみである。遺物は全く出土しておらず、時期を判断することは出来ない。用途は不明である。

第5節 3区段状遺構

SS-05（挿図24～30 図版4～10）

3区中央付近のB-3グリッド中央部からB-4グリッドにまたがり、南西方向に下る緩斜面の標高33.5m付近に位置する。SS-05の南側は道路改築のために削平されて崖面となっており、遺構の範囲は明確ではない。

SS-05は東西方向に長い遺構の両端部が南側に緩く屈曲して終わっている。長さ9.22m、幅については端部が明確ではないものの最大3.6m以上平坦面が形成されていると推測される。

底面は南に向けて傾斜を持ち、2ヶ所断続的に掘り残された所が存在した。また、P1～12のピットが存在し、P3～6内からは土器片が出土した。しかし、いずれも小片であり、時期等を判断することは出来なかった。ピットは遺構の西側に偏って存在しているが規模や間隔などは必ずしも一定したものではない。しかし、その中でP1・4・6・7・8などは南北方向に並んでおり、相互に関連している可能性は存在する。P12については位置的に他のピットから離れており、平面形も不整であることから、他とは異なる用途を持つと考えられる。遺構東端には、壁面を一部掘り込んで土坑状とも見える部分が存在したが、遺物などは出土しておらずその性格は不明である。

埋土は13層に分層出来た。

出土遺物のうち図化出来たものに、土器器の複合口縁甕Po10・11、「く」字状口縁甕Po13～22、壺Po23、高杯Po24～30、小型丸底甕Po31、須恵器の壺蓋Po32～37、环身Po38・39、有蓋高杯Po40、高杯41～52、広口壺Po53、小壺（？）Po54、平瓶Po55、大甕Po56、土器器高杯Po57、碗Po58・59、土製品として平瓦Po60～64、

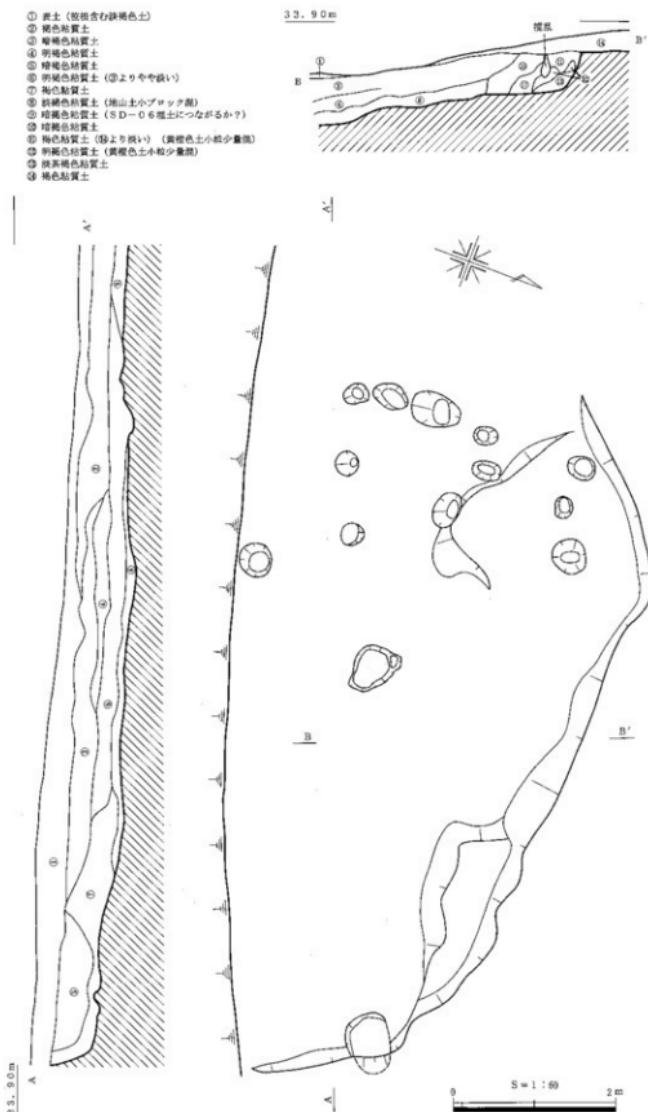
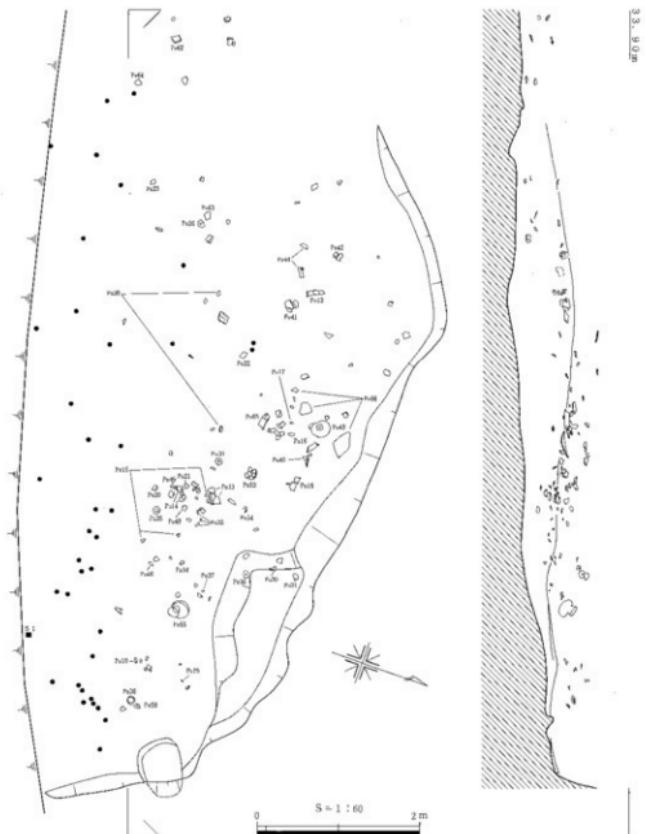


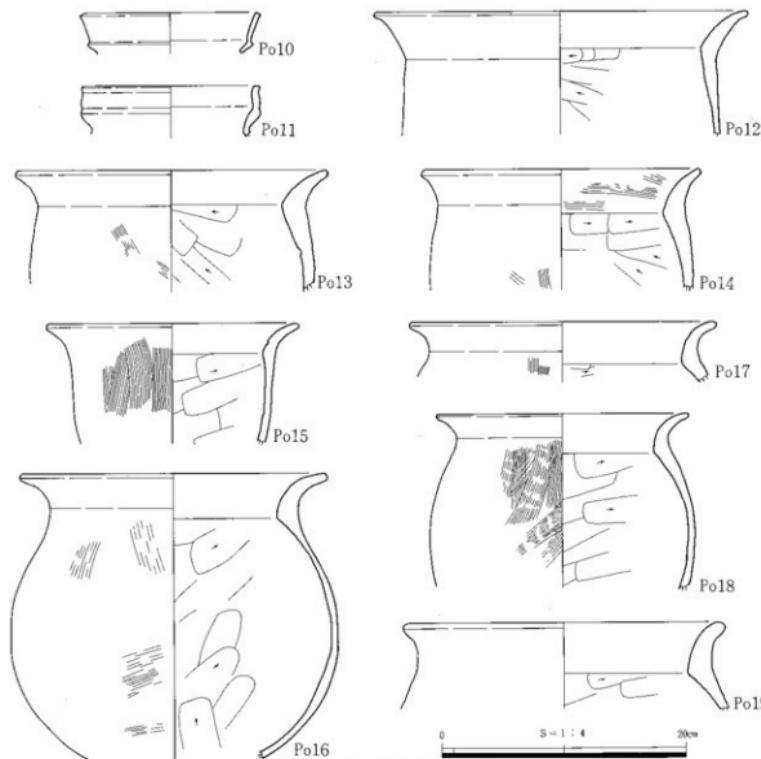
図24 SS-05遺構

移動式壺Po65、土鰐Po66、石製品では管玉S1が出土した。また、平成8年度調査時にSK13から出土した須恵器脚付盤Po154の同一個体片も存在した。土器の多くは破片の状態であり、完形で出土したPo35・36・38・55なども浮いた位置から出土していることから、遺物は流れ込みに因るものと推測される。比較的遺物の遺存状態がよく底部近くから出土したPo43は、口縁端部が内傾して平坦面を持ちわずかに段をなしており、7世紀後葉から8世紀初頭にかけての時期に当たるものであることから、7世紀後葉以降に造られた遺構と推測される。

SS-05は底面が必ずしも平坦とはいえず、南に向けて傾斜もしている。ピットの位置も西側に偏って集中しており、平成8年度のSS-01などに建物に関連するとは言い切れない。そのため、用途については判断が出来ない。



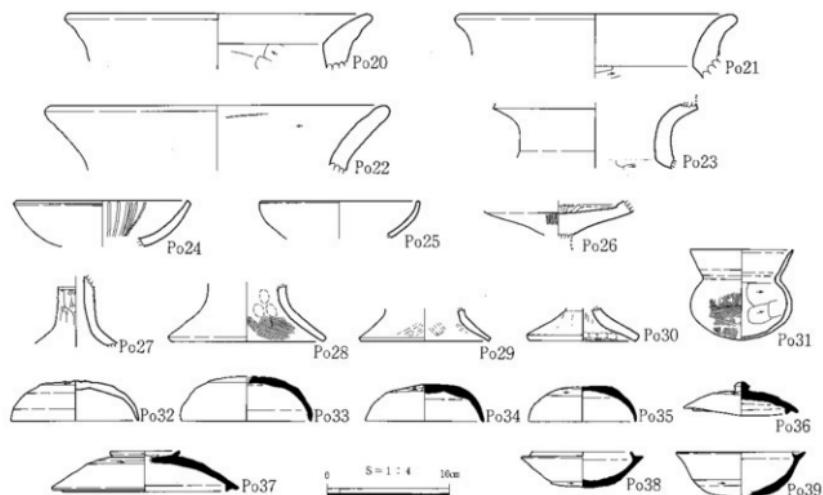
挿図25 SS-05遺物出土状況図



摺図26 SS-05出土遺物実測図 I

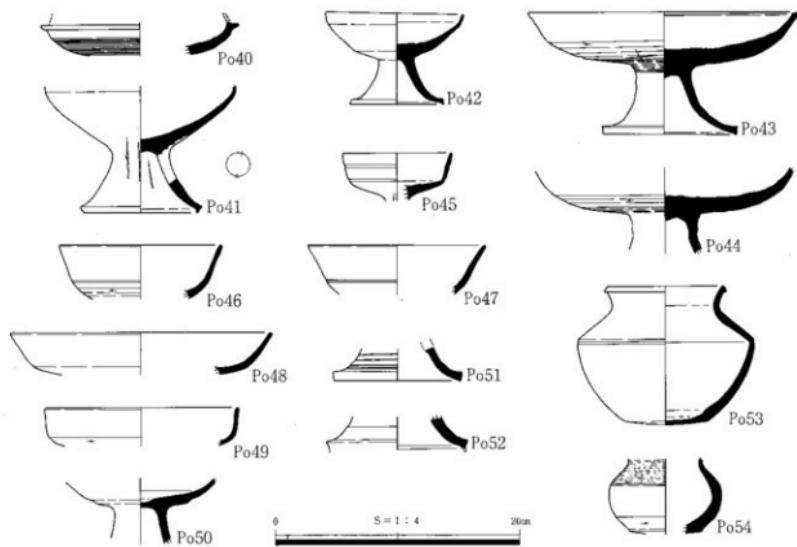
摺表4 3区SS-05出土土器・土製品観察表

遺物番号 特徴番号	割面 番号	遺物名	種類 器	直 径	形 状	上 部 特 徴	内 面 調 査	内面色調	外 面 色 調	地 土	燒 成	取上 地	実測値 No.	
Po10 26	5 SS-05	土器部 裏	土器部 裏	①△14.0 ②△3.1	ヨコナデ	ヨコナデ		灰白色	青(1mm以下の砂 粒多量)・良好	33	西川-35			
Po11 26	5 SS-05	土器部 裏	土器部 裏	①△14.0 ②△4.3	ヨコナデ	ヨコナデ		淡黄褐色	黑色	やや粗(2~3mm の砂粒多量)・ やや不良	146	西川-45		
Po12 26	5 SS-05	土器部 裏	土器部 裏	①△30.2 ②△10.2	口縁部ヨコナデ。肩部~体部にかけて不 規則方向ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。体部ヘラ ケズリ		褐色~にぶい褐色	青(1~5mmの砂 粒粗)・良好	71	西川-52			
Po13 26	5 SS-05	土器部 裏	土器部 裏	①△25.0 ②△10.2	口縫部~体部にかけてヨコナデ。一部に ハケ目	口縫部ヨコナデ。体部ヘラ ケズリ		淡黄褐色 ~灰青色	にぶい青 色	やや粗(2~5mmの 砂粒多量)・良好	72	西川-53		
Po14 26	5 SS-05	土器部 裏	土器部 裏	①△22.4 ②△10.0	口縫部ヨコナデで平坦状。口縫は凹み 深い。口縫部ヨコナデ。頸部~体部にか けてハケ目。一部に丸ハケ目	口縫部横方向の深いハケ目 ヨコナデ。体部ヘラケズ リ		褐色~に ぶい褐色	青(2~4mmの砂 粒少量)・良好	33	西川-54	56	58	
Po15 26	5 SS-05	上部器 裏	上部器 裏	①△30.0 ②△ 9.0	口縫部凸輪ナギ。体部カタハケ。(1cm あたり1~10枚)	口縫部ヨコナデ。体部ヘラ ケズリ		褐色	青(砂粒粗)・良 好	135	199	西川-51		
Po16 26	5 SS-05	土器部 裏	土器部 裏	①△24.6 ②△23.6 ③△26.9	口縫部ヨコナデ。肩部カタカタヘケ目。 底部横方向のハケ目。全体に質感不明瞭	口縫部ヨコナデ。体部ヘラ ケズリ		にぶい褐 色	やや粗(2~3mm の砂粒多量)・ 良好	24	26	97	西川-50	
Po17 26	5 SS-05	土器部 裏	土器部 裏	①△24.4 ②△ 5.1	口縫部ヨコナデ。頸部クテハケ	口縫部ヨコナデ。頸部ヘラ ケズリ。口縫部に砂粒の付 着がある。また、ハケ目の 間にケズリを施すか?		灰白色	灰黃褐色	青・良好	134	125	147	西川-56
Po18 26	6 SS-05	上部器 裏	上部器 裏	①△20.4 ②△ 4.6 ③△21.8	口縫部ヨコナデ。体部ハケ目	口縫部ヨコナデ。体部ヘラ ケズリ		褐色~灰黃褐色	やや粗(2~4mm の砂粒多量)・ 良好	119	136	147	西川-51	
Po19 26	5 SS-05	上部器 裏	上部器 裏	①△25.0 ②△ 7.3	口縫部ヨコナデ。以下風化のため調査不 明。外面に黒斑あり	口縫部ヨコナデ。体部ヘラ ケズリ		にぶい黄褐色	やや粗(1~3mm の砂粒多量)・ 良好	144	168	206	西川-53	



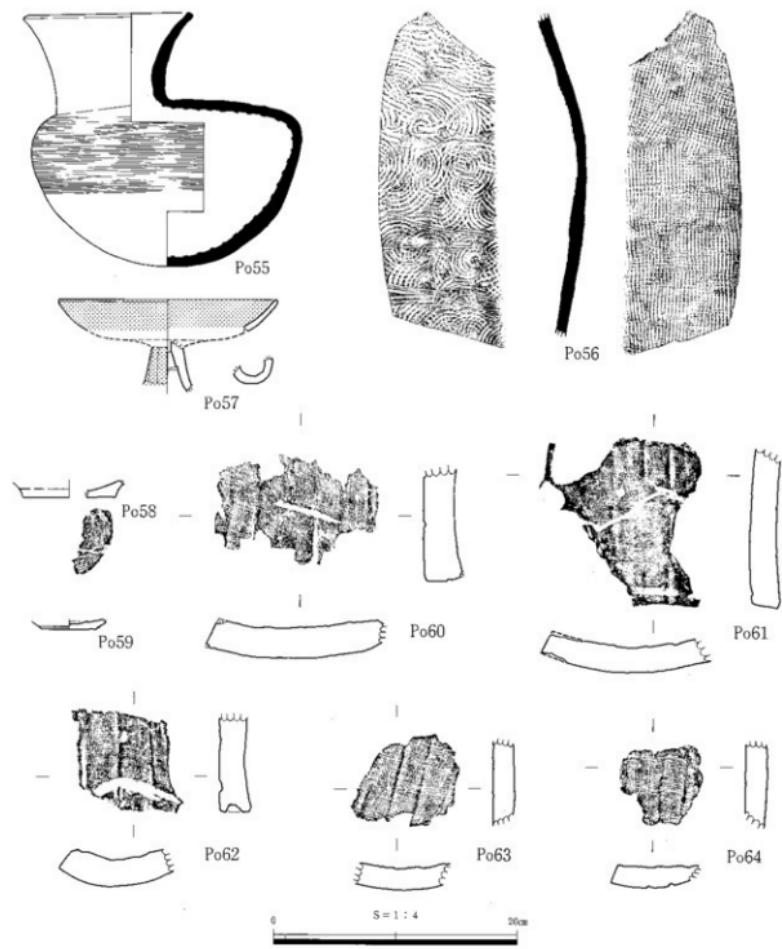
挿図27 S S-05出土遺物実測図II

遺物番号 測量番号	測量番号	遺物名	器 類	寸 法 (cm)	形 外 的 特 徴	上 の 特 徴	内 面 調 査	内 面 色 調	外 面 色 調	地 土	施 成	取上№	実測者№	
Po20 27	5 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	①約21.4 △約4.6	口縁部ヨコナギ。外側にスス付着	口縁部ヨコナギ。体部ヘラ ケズリ	浅黄褐色～薄灰色	密・良好	密	西川-34		48	西川-34	
Po21 27	6 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	①約22.0 △約5.3	口縁部ヨコナギ。全体にやや風化	口縁部ヨコナギ。体部ヘラ ケズリ	灰黃褐色～灰褐色	やや粗（2~4mm の砂粒混入）	良好	西川-37		55	西川-37	
Po22 27	6 SS-05	土器部 底盤？	直筒型 底盤？	①約27.7 △約5.4	ヨコナギか？ 外側全体にスス付着	ヨコハケ後ナデ消し	に、よい黄 褐色	やや粗（2~4mm の砂粒混入）	良好	西川-67		103	西川-67	
Po23 27	6 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	②△5.4	口縁部ヨコナギ	口縁部ヨコナギ。底部ケズ リ後削消し	淡黄褐色	密・良好	密	西川-41		89	西川-41	
Po24 27	6 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	①約26.4 △約3.8	口縁部ヨコナギ。作業によるヨコナギ	ナデ痕跡方向に長い閉鎖的 なヘラミガキ	橙色	尚・良好	尚	西川-56		167	西川-56	
Po25 27	6 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	①約13.0 △約3.1	測定不明瞭だがヨコ方向のナギ又はハケ	風化のため調整不明	橙色	密・良	密	西川-62		35	西川-62	
Po26 27	6 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	②△2.9	环状ハケ付。片端部付近は脚部横断に伴 ないナギ消し	环部ハケ後ナギ又はミガ キ。环部ナギ後斜め小粗 いヘラミガキ	橙色	尚・良好	尚	西川-38		86	西川-38	
Po27 27	6 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	②△5.8	脚柱部タハケ後脚部のヘラミガキ 付。比較的多く付着部は年輪が確認でき ないかへうとミガキか？	脚柱部しばり目。脚部剥離 不規則	橙色	密	良好	西川-43		166	西川-43	
Po28 27	6 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	②△4.8	風化のため調整不明	脚柱部剥離直痕。脚部ハ ケ付	橙色	尚	良好	西川-39		150	西川-39	
Po29 27	6 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	②△2.7	脚部外側ハケ後ナデ消し	脚柱部剥離直痕。脚部ハ ケ後ナギ消し	橙色	密・良	密	西川-63		206	西川-63	
Po30 27	6 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	②△2.8	タケ方向の丁寧なミガキ	脚柱部ぼり目。以下ナ ギ・剥離直痕・ハケ付	橙色	密	良好	西川-40		106	西川-40	
Po31 27	7 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	①△7.5 △約8.4 △約8.4	口縁部ヨコナギ。脚部タハケ後ヨコナ ギ。	口縁部ヨコナギ。体部ヘラ ケズリ。附近にはヘラカ ズリ跡ナギか？	橙色	尚	良好	西川-55		25	西川-55	
Po32 27	6 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	①約10.4 △約3.4	全体に風化。外側調整不規則。所々・滴 液は赤茶色の付着或は土器鉢の、口縫 部は黒褐色ナギ。	風化のため調整不明	に、よい黄 褐色	褐色～に よい黄褐色	尚	不良	西川-61		90	西川-61
Po33 27	7 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	①△10.6 △約3.8	脚柱部のみ。人井僅ハケナギ後ナギ	脚柱部削除ナギ。天井部不 規則ナギ	オリーブ灰色 （深緑色）	尚（深緑色） 及好	尚	西川-28		25	西川-28	
Po34 27	7 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	①△9.8 △約3.1	脚柱部削除ナギ。火井僅削除後ナギ	脚柱部削除ナギ。天井部不 規則ナギ	灰色	密	良好	西川-9		23	西川-9	
Po35 27	7 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	①△8.5 △約3.0	脚柱部のみ。人井僅ハケナギ後ナギ	脚柱部削除ナギ。天井部不 規則ナギ	青褐色	密	良好	西川-5		47	西川-5	
Po36 27	7 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	①△9.4 △約4.7	人井僅削除ハケナギ。口縫部削除ナギ。	口縫部削除ナギ。天井部不 規則ナギ	灰白色	尚	良好	西川-3		57	西川-3	
Po37 27	7 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	①△15.4 △約3.4	天井部外側に脚柱部から約5.6~1.8cm 間付近に、赤茶色・深褐色濃青色の斑紋。 井頭部削除後ナギ。	脚柱部削除ナギ。天井部不 規則ナギ	灰褐色（シ テナカ）	尚（大きな針粒少 量混入）	尚	西川-6		24	西川-6	
Po38 27	7 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	①△8.2 △約3.8	口縫部削除ナギ。底盤削除ハケナギ。	脚柱部削除ナギ	灰色	密・良好	密	西川-2		111	西川-2	
Po39 27	7 SS-05	土器部 底盤	直筒型 底盤	①△10.4 △約4.7	口縫部削除ナギ。脚柱部削除ハケナギ。 ヘラ切り削り後ナギ	口縫部削除ナギ。底盤不 規則ナギ	青褐色	密・良好	密	西川-11		94	西川-11	
												130		



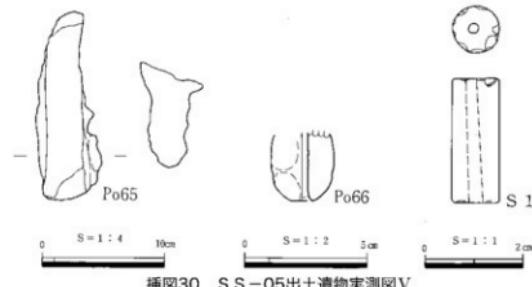
擲図28 SS-05出土遺物実測図III

遺物番号	出発場所	遺構名	機器番号	高さ (cm)	形	上・中・下	特徴	内面調整	内面色調	外側色調	施上・焼成	収上地	実測値	
Po49 28	6 SS-05	須恵器 無蓋高環	③△ 2.7	口縁部回転ナギ。底部部にさき目(ひつ)と と接続される腹内内の1本のハラ筋	回転ナギ			青灰色	暗緑灰色	青・良好	146	西川-14		
Po41 28	5 SS-05	須恵器 無蓋高環	△△ 10.5	回転ナギ。三方の邊が少し	回転ナギ	口縁部等回転ナギ。外周部 不整方向ナギ。脚部回転ナギ		暗緑灰色	暗緑灰色	青・良好	70	西川-1		
Po42 28	5 SS-05	須恵器 無蓋高環	① 11.5 △△ 7.7	回転ナギ	内面ナギ。内面内に黒色 の付着物			灰色	青(砂鉄小斑点)・ 良好	74	西川-4			
Po43 28	8 SS-05	須恵器 無蓋高環	△△ 9.6 △△ 22.2	口縁部内面に浅く、外周部に△×△の ハラ記り。口縁部回転ヘラケツリ ~カキ目。結合部接着ナギ。結合部接着ナギ。 脚部回転ナギ	口縁部回転ナギ。外周部不 整方向ナギ。脚部回転ナギ ~カキ目。結合部接着ナギ	底白青	暗緑灰色	青・良好	120 29 72 75 143	西川-7				
Po44 28	6 SS-05	須恵器 無蓋高環	△△ 7.1	口縁部回転ナギ。底部回転ヘラケツリ ~カキ目。結合部接着ナギ	口縁部回転ナギ。外周部は 底白青小斑点が點在。脚部直角後 ~カキ目。結合部接着ナギ	底白青	暗緑灰色	青・良						
Po45 28	6 SS-05	須恵器 無蓋高環	△△ 4.0	回転ナギ。透かしの一部あり	口縁部回転ナギ。底杯部不 整方向ナギ			暗緑灰色	青・良好	31	西川-15			
Po46 28	6 SS-05	須恵器 無蓋高環	△△ 4.0 △△ 13.2	口縁部回転ナギ。口縁部~底周部へ タリヤリ。一帯の青色	口縁部回転ナギ。底杯部不 整方向ナギ			青灰色	青灰青色	青(砂鉄小斑点)・ 良好	32	西川-16		
Po47 28	6 SS-05	須恵器 無蓋高環	△△ 4.1	口縁部回転ナギ。二条の吹抜	回転ナギ			暗灰色	青・良好	33 139 168 199	西川-13			
Po48 28	6 SS-05	須恵器 無蓋高環	△△ 11.2 △△ 3.5	口縁部から底部周辺灰黒味。口縁部 私ナギ	回転ナギ			青灰色	暗青灰青色	青・良好	25 49 206	西川-12		
Po49 28	3区 SS-05	須恵器 無蓋高環 环状	△△ 15.5 △△ 3.2	口縁部回転ナギ。底杯部回転ヘラケツリ ~カキ目	口縁部回転ナギ。底部不整 方向ナギ			灰白色	青(砂鉄小斑点)・ 良好	7	西川-24			
Po50 28	6 SS-05	須恵器 高環 高足	②△ 5.4	回転ナギ	口縁部不整方向ナギ。中央に 指捺印跡。口縁部接着する ため表面削除			暗青灰色	青・良好	132	西川-17			
Po51 28	6 SS-05	須恵器 高環 脚部	②△ 2.8 △△ 10.2	回転ナギ。底脱と接続される底脱 の底	回転ナギ			灰	青・良好	145	西川-19			
Po52 28	6 SS-05	須恵器 高環	△△ 2.8	脚部外面わずかに凹む。回転ナギ	回転ナギ			青灰色	青・良好	179	西川-23			
Po53 28	8 SS-05	須恵器 口扱	① 11.5 △△ 9.4 △△ 6.8 △△ 14.6	口縁部膨化する口扱付底平足。全体 に足の跡の底脱不整方向。底脱~西周 に回転ヘラの痕跡と見われる標方向 の砂の移動跡	膨化した形調整不明			灰白色	暗青灰色	青・不良	127 147	西川-32		
Po54 28	9 SS-05	須恵器 小豆?	①△ 6.2 △△ 6.8	口縁部キヨ目が自然剥落付のため割離 不明跡。全体から底脱不整方向へ~ ヘラ化。脚部ケツリ接合ナギなし。 外周に自然地	回転ナギ			灰白色	灰白色~ 暗青灰色	青・良好	25 53 172	西川-22		



挿図29 SS-05出土遺物実測図IV

遺物分類 呼称名	回収 番号	遺物名	施設 形態	法 尺 (mm)	形 態 外 面 の 特 徴	内 面 調 査	内 面 色 調 査	外 面 色 調 査	施 工 ・ 修 成	取上No.	実測名
Po55 29	8 S 5-05	須恵器 子鉢	○△28.8 △△13.2 ○△22.3	17.7 13.2 22.3	直腹縦目付テグス。底面に子鉢目。下平 底子伏脱クタク後部付近細いハケ目	口縁部に直腹縦目付テグス。底 部付近細いハケ目	灰色	褐色～灰 褐色	密・良好	38	西川-47
Po56 29	9 S 5-05	須恵器 側部	△△36.5	36.5	舟形状脱クタキ目	同心円款クタキ目。部分的 にヨコ方向のテグスによるナ ギ目。断面外周波形	明オリ一 ブ灰褐色	暗褐色～灰白色	密・良好	60 95 104	西川-68
Po57 29	9 S 5-05	上部器 高脚	△△17.8 △△7.0	17.8 7.0	直柱部に不規則な面取り。所々不明瞭な 所で方向のテグスはヘラミガギ。断面ヨコ ナギ目。断面外周波形	所々不明瞭な直柱部のナギ 目。所々ナギ目。断面工具によるナ ギ目。	にぶい黄褐色	密・良好	202	西川-57	
Po58 29	9 S 5-05	土師器 瓶	△△1.5 △△1.6	1.5 1.6	器部ナギ。底面角切り	調整不明	浅褐色	青・やや不良	206	西川-48	
Po59 29	9 S 5-05	土師器 瓶	△△4.9 △△4.6	4.9 4.6	底面調整不明。底面小明瞭だが角切り	調整不明	灰色	褐色	160	西川-49	
Po60 29	10 S 5-05 (作目)	平底 瓶	△△5.2 △△2.6	5.2 2.6	底面ヘラ切り。工具によるナギ	布目模	灰白色	やや粗(3~10 mm砂粒度)・良 好	182	西川-75	



挿図30 S S - 05出土遺物実測図V

遺物番号	採取番号	遺構名	種類	径 (cm)	形 型	外 面 の 特 徴	内 面 断 面	内面色調	外面色調	胎 + 灰成	取上No.	実測者No.
Po61 29	10	3区 SS - 05	平底 (布目)	②△13.3 ③△14.0 ④△2.3	縦部へラ切り。工具によるナデ	布目底	灰白色	灰白	南 (2 ~ 5mmの妙 粒度) - 灰	78	西川 - 76	
Po62 29	10	3区 SS - 05	平底 (布目)	②△7.8 ③△9.5 ④△2.5	縦部へラ切り。工具によるナデ。微窓質	布目底	灰白色	灰白	密・良好	79	西川 - 77	
Po63 29	10	3区 SS - 05	平底 (布目)	②△7.6 ③△9.5 ④△1.9	工具によるナデ	布目底	灰灰色	灰白	密・良好	87	西川 - 78	
Po64 29	10	3区 SS - 05	平底 (布目)	②△5.7 ③△6.0 ④△1.8	縦部へラ切り。工具によるナデ	布目底	绿灰色	青碧色	南 (1 ~ 2mmの妙 粒度) - 灰	85	西川 - 80	
Po66 32	9	3区 SS - 05	打抜孔 移動孔 壁?	②△15.6	長い削ナデ、わずかに削ナデ前のハケ目 が認められる		剥赤褐色～にぶい 褐色	剥赤褐色～にぶい 褐色	南 (2 ~ 5mmの妙 粒度) - 及好	73	西川 - 74	
Po66 30	8	3区 SS - 05	土蜘蛛 土玉	②△2.8 ③△0.5	手ぐね。径5mmの穴。端部穿孔時に次 ける		黑色	密・良好		196	西川 - 69	

挿表5 3区 S S - 05出土石製品観察表

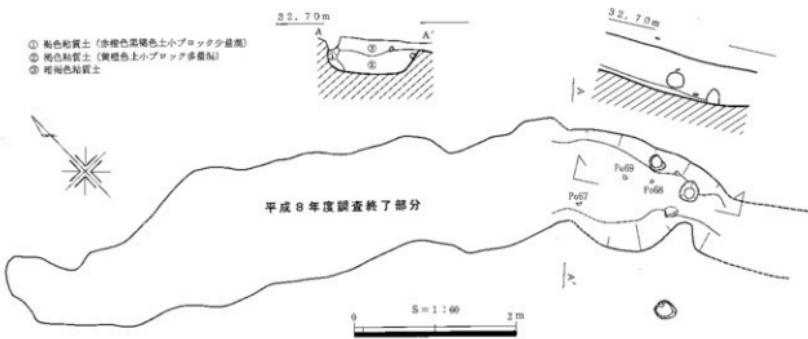
遺物番号	挿図番号	図版番号	遺構名	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	孔 径 (cm)	重 量 (g)	材質	取上No.	備 考	実測者No.
S 1	30	8	S S - 05	管玉	2.6	1.0	1.0	0.2	4.9	碧玉	188		西川 - 81

第6節 3区溝状遺構

SD-06 (挿図31・32 図版4・9)

平成8年度調査時のSD-06に継続する箇所を検出した。

調査区南東寄りのB-3グリッド南東側の標高32.5m付近に位置する。平成8年度に調査されたSD-06に続く所である。今年度調査部分は長さ約3.1mであるが、南東側約0.9mについては搅乱のため形態が不明確である。



挿図31 SD-06遺構図



挿図32 SD-06出土遺物実測図

挿表6 3区SD-06出土土品観察表

遺物番号 調査番号	図版番号	遺物名	種類 目	幅 幅	法 長 (m)	形 状 外 面 調 査	内 面 調 査	内 部 色 調	外 部 色 調	胎 上 ・ 性 成	取 上 地	出 現 場 所
Po 69 32	9	3区 SD-06	須恵器 蓋7 柄部	②△ 2.9	横方向のハケ目又はナデ。縱方向の平行 タキ目	同心円状タキ目		灰白色	灰・良好		131	西川-82
Po 67 32	9	3区 SD-06	須恵器 蓋7 柄部	③△ 4.4	縱方向の平行タキ目後横方向のカキ目。 外側に自然縫	同心円状タキ目		灰白色	灰・良好		159	西川-84
Po 68 32	9	3区 SD-06	須恵器 蓋7 柄部	②△ 4.0	縱方向の平行タキ目後横方向のカキ目又 はハケ目。外側に自然縫	同心円状タキ目		青灰色	灰・良好		152	西川-83

道路によって削平されているため本来の長さは不明であるが、調査部分の総計では約12.9mの長さが存在したことになる。底面には円形状の2個のピットが存在した。

埋土は3層に分層した。

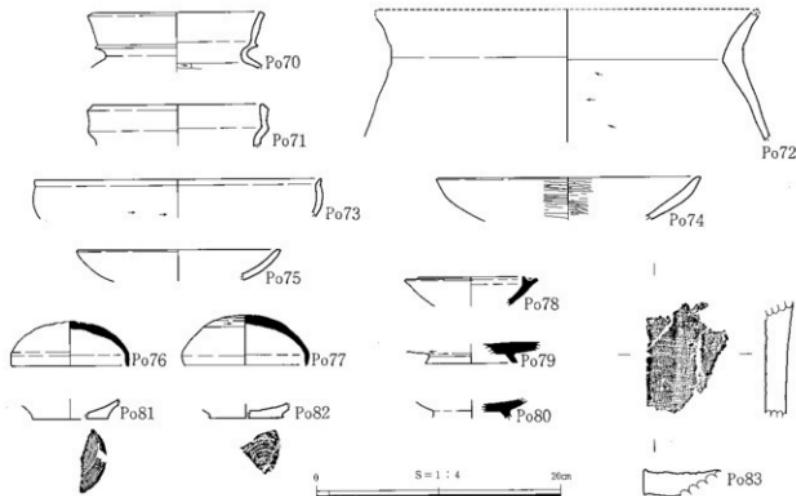
遺物では底面から磨滅した布目瓦片、埋土上部から須恵器胴部片Po67～69が出土した。

平成8年調査ではSD-06の時期を平安時代後半から中世頃と推測しているが、それを追認できる遺物は出土しなかった。用途についても新たな見解を導くことは出来なかった。

第7節 3区遺構外の遺物

遺構外出土遺物（挿図33 図版9・10）

遺構外からは土師器複合口縁甕Po70・71、「く」字状口縁甕Po72、高环Po73～75、須恵器坏蓋Po76・77、坏身78、高台付坏Po79・80、土師質土器（碗）底部Po81・82、布目平瓦Po83が出土した。これらの中にはSS-05などの遺構に伴っていたものも多いと思われるが、出土位置が明確でないものは遺構外出土遺物として扱う。



挿図33 石脇第3遺跡森末地区3区遺構外出土物実測図

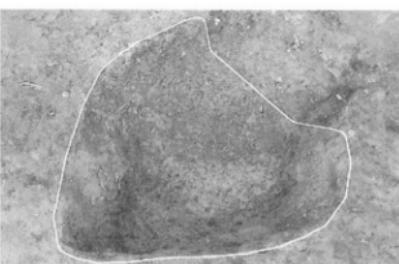
挿表7 3区遺構外出土土器観察表

遺物 別記番号	回収 番号	遺物名	種類 基盤	寸 法 (cm)	形 態 外 面 上 の 特 徴	内 山 調 査	内面色調	外面色調	新 土 ・ 焼 成	出土 所	実測番号	
Po70 33	9	3区 遺構外 土器	土器部 裏面	①△13.4 △△4.8	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ。体部ヘラ ケズリ	にぶい黄褐色	密・良好	25	西川-44		
Po71 33	9	3区 遺構外 土器	土器部 裏面	①△14.0 △△3.7	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	にぶい黄褐色	密・良好	32	西川-46		
Po72 33	9	3区 遺構外 土器	土器部 裏面	②△10.7 △△3.0	口縁部ヨコナデ。体部工具による縱方向 のカス	口縁部ヨコナデ。体部ヘラ ケズリ後ナデ剥しがち?	にぶい黄 褐色 （2mm程度の砂 粒少許附）	桜色	27	西川-66		
Po73 33	9	3区 遺構外 土器	土器部 裏面 外縁	①△23.4 △△3.2	口縁部ヨコナデ。以下ヨコ方向のカス リ剥ナデ又はミガキ	風化のため調整不規	明黄色調	にぶい黄 褐色	密（小砂粒附）・ 良好	23	西川-66	
Po74 33	9	3区 遺構外 土器	土器部 裏面 外縁	①△21.4 △△3.6	口縁部ヨコ方向のヘラミガキ。以下ヨコ 方向のカスリ剥コ石片の中や粗いヘラミガキ	横方向の丁寧なヘラミガキ	桜色	褐色～灰 褐色	密・良好	26	西川-59	
Po75 33	9	3区 遺構外 土器	土器部 裏面 外縁	①△16.4 △△2.6	風化のため調整不規	風化のため調整不規	にぶい黄 褐色 （2mm程度の砂 粒少許附）	密・良	25	西川-58		
Po76 33	9	3区 遺構外 土器	土器部 裏面 外縁	①△9.4 △△3.7	口縫剥削ナデ。天井部ヘラ切り剥し後 剥けナデ	口縫剥削ナデ。天井部不 規方角ナデ	灰	密・良好	26	西川-10		
Po77 33	10	3区 遺構外 土器	土器部 裏面 外縁	①△10.0 △△4.2	口縫剥削ナデ。天井部剥削ヘラケズリ 後ナデ。頂部ヘラ切り剥し後ナデ	口縫剥削ナデ。天井部不 規方角ナデ	青灰色	青（砂少量附）・ 良好	1	西川-21		
Po78 33	9	3区 遺構外 土器	土器部 裏面 外縁	①△8.6 △△11.0	自然剥離するため調整不規。外因に自然 剥離	剥離ナデ	灰	密・良好	23	西川-18		
Po79 33	9	3区 遺構外 土器	土器部 裏面 外縁	②△1.7	底部剥離ヘラケズリ。高台剥離ナデ	風化のため調整不規	灰	密・良好	22	西川-25		
Po80 33	9	3区 遺構外 土器	土器部 裏面 外縁	②△1.6	回転ナデ	回転ナデ	オリーブ灰	密・良好	184	西川-60		
Po81 33	9	3区 遺構外 土器	土器部 裏面 外縁	①△1.7 △△6.2	底部ヨコナデ。底面あ切り	ヨコナデ	灰黃褐色	密・良好	21	西川-30		
Po82 33	9	3区 遺構外 土器	土器部 裏面 外縁	①△1.2 △△3.0	底部ヨコナデ。底面あ切り	ヨコナデ	灰白色	にぶい 黄褐色	密・良	26	西川-65	
Po83 33	9	3区 遺構外 平瓦 (赤瓦)	土器部 裏面 外縁	①△9.3 △△2.1	縫隙ヘラ切り。工具によるナデ	布目模	灰白色	青（3~5mmの砂 粒少許附）	良好	22	西川-79	

図 版



調査前状況（東より）



SK-01完掘状況（南より）



SX-01完掘状況（西より）



SD-01検出状況（西より）



調査地ベルト（南より）



SD-01完掘状況（西より）



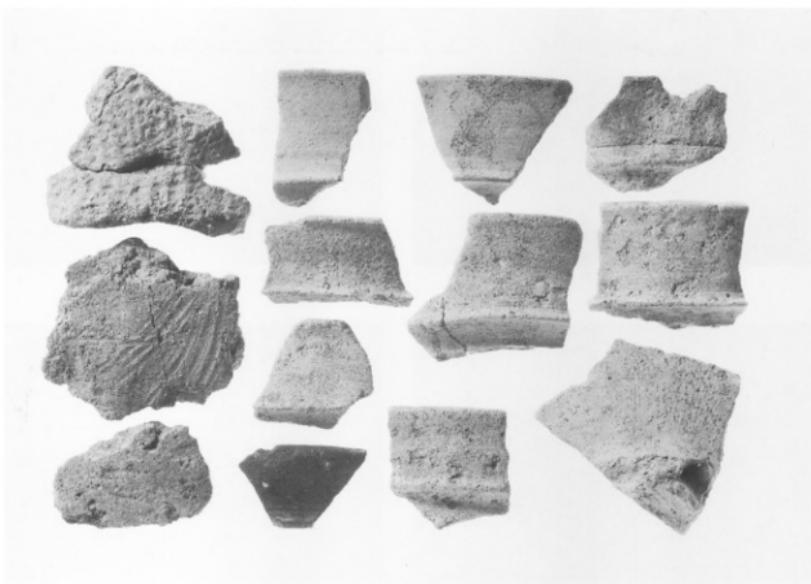
ベルト断面（西より）



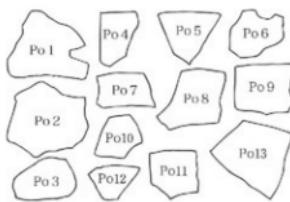
作業風景（南より）

図版2

小浜千速遺跡



F I



小浜千速遺跡出土遺物

石脇第3遺跡
森末地区2区・3区

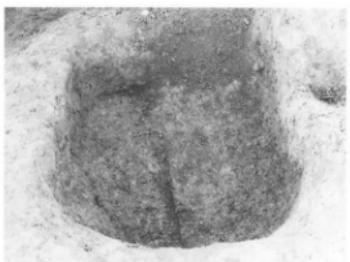
図版3



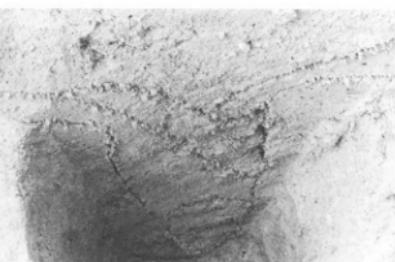
調査地遠景（南より）



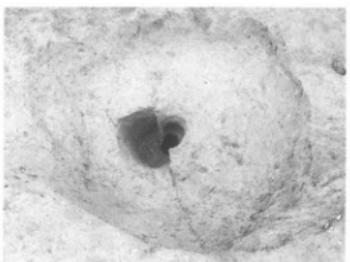
2区SK-17断面（南東より）



2区SK-16完掘状況（東より）



2区SK-17底面ピット断面（南東より）



2区SK-17完掘状況（北東より）



2区遺物出土状況（北東より）



2区完掘状況（北東より）



3区SK-19断面（西より）

図版4

石脇第3遺跡
森末地区2区・3区



3区SS-05南北断面（東より）



3区SS-05遺物出土状況1（北東より）



3区SS-05東西断面（北西より）



3区SS-05遺物出土状況2（西より）



3区SD-06断面（北西より）



3区SD-06完掘状況（西より）



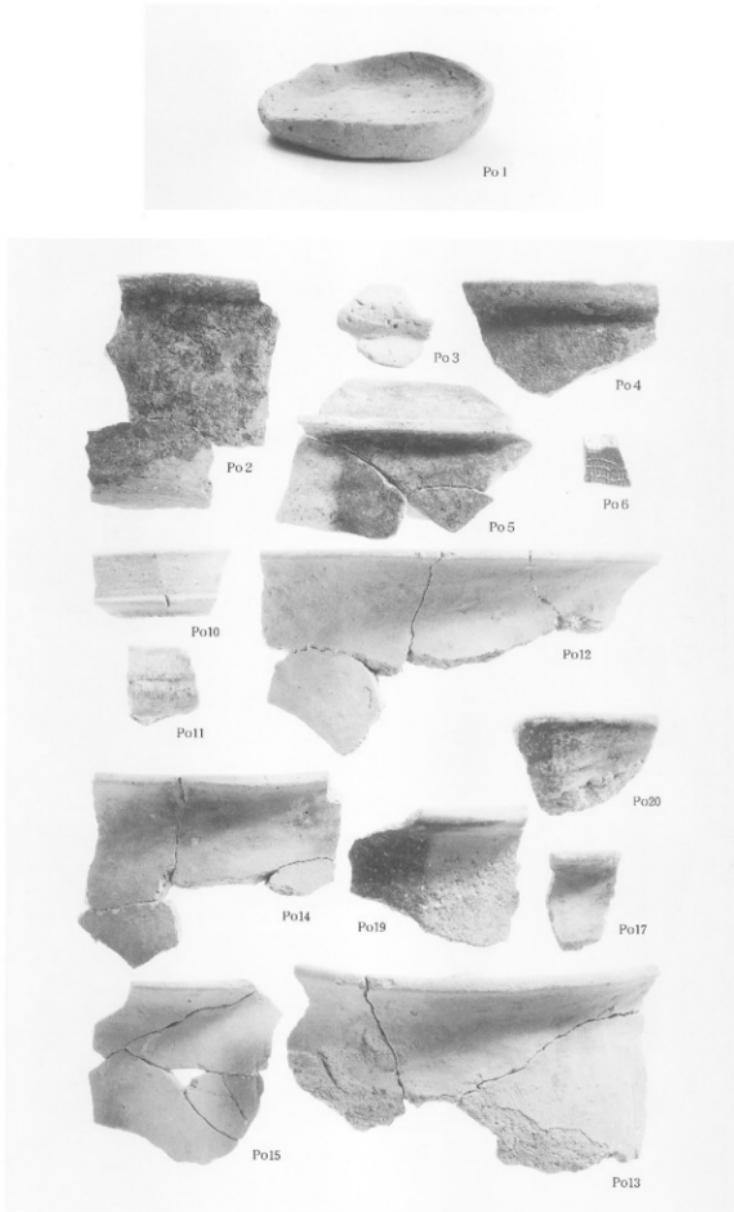
作業風景（西より）



3区完掘状況（西より）

石脇第3遺跡
森末地区2区・3区

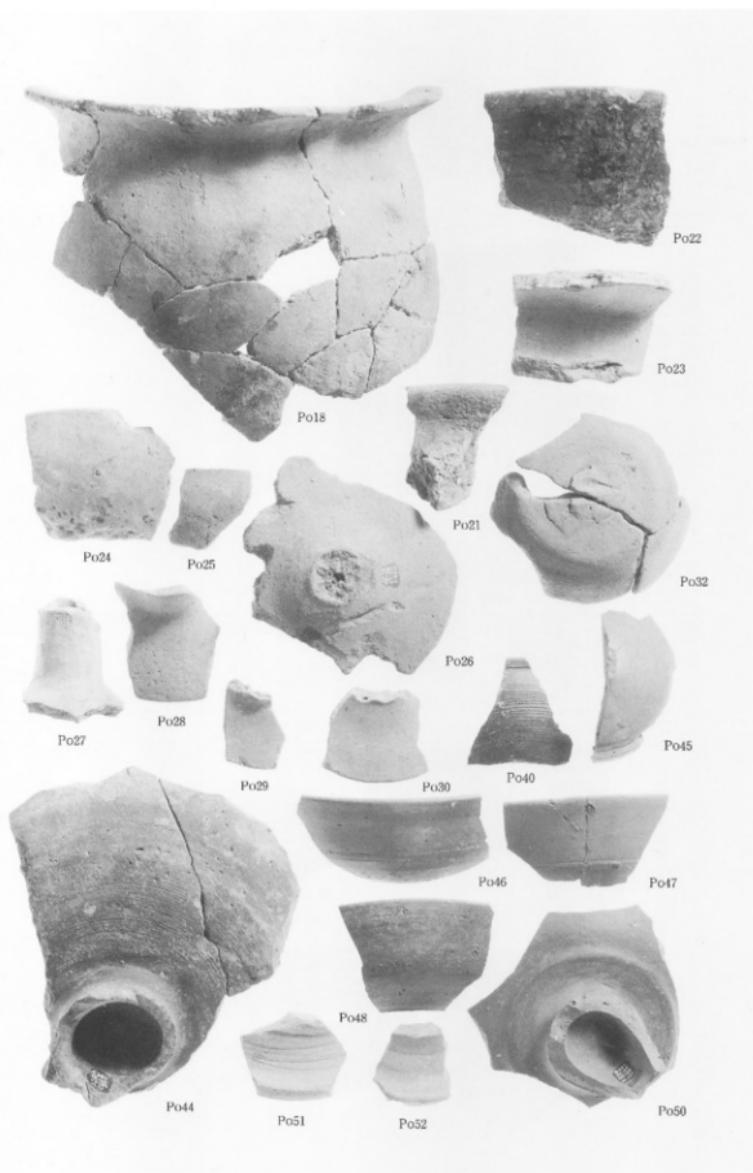
図版5



石脇第3遺跡森末地区2区・3区遺構外出土遺物1

図版6

石脇第3遺跡
森末地区2区・3区



石脇第3遺跡森末地区2区・3区遺構外出土遺物2

石脇第3遺跡
森末地区2区・3区

図版7



Po31



Po33



Po34



Po35



Po36



Po37



Po38



Po39

石脇第3遺跡森末地区2区・3区遺構外出土遺物3

図版8

石脇第3遺跡
森末地区2区・3区



Po41



Po42



Po43



Po53



Po55

石脇第3遺跡森末地区2区・3区遺構外出土遺物4



Po66

Po9

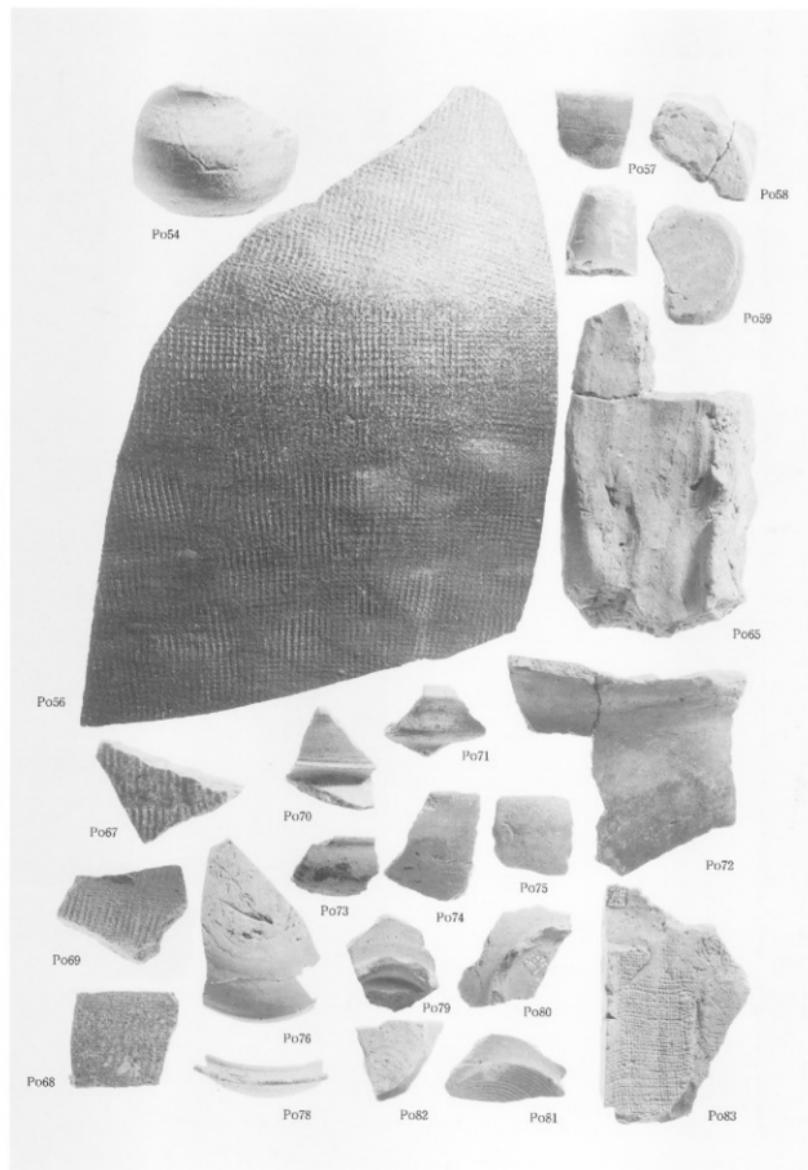
Po8

Po7

S1

石脇第3遺跡
森末地区2区・3区

図版9



石脇第3遺跡森末地区2区・3区遺構外出土遺物5

図版10

石脇第3遺跡
森末地区2区・3区



石脇第3遺跡森末地区2区・3区遺構外出土遺物6

報告書抄録

ふりがな	こばませんぞくいせき いしわきだいさんいせきもりすえちくにく・さんく									
書名	小浜千速遺跡 石脇第3遺跡森末地区2区・3区									
副書名	一般国道9号(青谷・羽合道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書									
巻次	IV									
シリーズ名	鳥取県教育文化財団調査報告書									
シリーズ番号	65									
編著者名	西川徹 手島尚樹									
編集機関	財団法人鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター									
所在地	〒680-0151 鳥取県岩美郡国府町宮下1260番地 TEL(0857)27-6711									
発行年月日	西暦2000(平成12)年3月31日									
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因		
小浜千速遺跡	鳥取県東伯郡 泊村小浜字千速 389	市町村	遺跡番号	31362	2-72	35度 30分 51秒	133度 58分 10秒	19990701 ~ 19991004	3564	一般国道9号 (青谷・羽合道路)改築工事
石脇第3遺跡森 末地区2区・3 区	鳥取県東伯郡 泊村石脇字森末 468-1、549-1-5	31362	2-22	35度 30分 33秒	135度 57分 35秒	19991005 ~ 19991130	380	一般国道9号 (青谷・羽合道路)改築工事		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項					
小浜千速遺跡	包含層	弥生時代～ 古墳時代	土坑 溝状遺構	2 1	繩文土器 土師器					
石脇第3遺跡森 末地区2区・3 区	駅家関連 遺構？	古墳時代～ 奈良時代	土坑 段状遺構 溝状遺構	8 1 1	土師器・須恵器 布目瓦・土師質土器 瓦質土器・管玉					

鳥取県教育文化財団調査報告書65

一般国道9号（青谷・羽合道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県東伯郡泊村

小浜千速遺跡
石脇第3遺跡森末地区
-2区・3区-

発行 2000年3月31日

編集 財團法人 鳥取県教育文化財団

鳥取県埋蔵文化財センター

〒680-0151 鳥取県岩美郡国府町宮下1260番地

電話 (0857)27-6711

発行者 財團法人 鳥取県教育文化財団

印刷 山本印刷株式会社